

季刊・令和5年1月15日発行・第59巻第1号（通巻497号）

ISSN 0014-9586

# ***Feed Trade***

**WEB版**

**VOL. 59 NO. 1**



**2023**

**1**  
~3

**飼料輸出入協議会**

**JAPAN FEED TRADE ASSOCIATION**

2023年 1～3月号



## 目 次

新春のご挨拶／立川 義大…… (3)

年頭のご挨拶／渡邊 洋一…… (6)

### <新春海外だより>

シンガポール／杉村 昌彦… (11) アビジャン／中村 哲朗…… (16)

ニューヨーク／小國 聖仁… (21) ホーチミン／山本 智史…… (27)

Bulgaria／Vladimir Krachunov… (32) ノースダコタ／梶 拓郎… (35)

上 海／升井 健吾 …… (41) シンガポール／石川 英樹… (43)

ヘッジについて／姫野 健二…… (47)

シリーズ●わが社「自慢の逸品」——第34回

ポストバイオティクス—動物の腸内細菌叢の最適化とDiamond V™  
Original XPC Ultraのご紹介／Stacey Jones…… (58)

シリーズ●各地の食生活——第12回

フィリピンの食生活／浦上 真由香…… (65)

シリーズ●各商社の担当者紹介⑨ 伊藤忠商事株式会社

わが社の受渡担当者3名の横顔／仲井 研也…… (70)

2022年10大トピックス…… (74)

「新春賀詞交礼会」3年ぶりに開催…… (75)

第54回 (2022年) Feed Tradeアンケート当選者発表…… (80)

第55回 (2023年) Feed Tradeアンケートのご案内…… (81)

### ●New Balance<12>

ラニーニャ現象と米国ドル高に翻弄された2022年の穀物需給／岩崎 正典…… (82)

春季為替セミナー開催のご案内…… (101)

『Feed Trade』総目次 (2022年1-3月号, 4-6月号 WEB版~10-12月号) …… (102)

編集後記…… (105)

# 新春のご挨拶



飼料輸出入協議会理事長

立川 義大

(伊藤忠商事(株)食糧部門長代行／兼飼料・穀物部長)

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、皆様のご健康とご多幸を心よりお喜び申し上げます。旧年中は格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。飼料輸出入協議会を代表いたしまして、新年のご挨拶を申し上げます。

2022年を振り返りますと、記憶に新しいサッカーワールドカップの日本の大躍進がありました。1993年ドーハの悲劇でピッチに立っていた森保一監督率いる日本代表は、因縁の地、カタールで優勝候補ドイツ・スペインを破り、“死のグループ”と呼ばれたグループリーグを突破。ベスト8を賭けクロアチアと死闘を繰り広げ、惜しくもPK戦で破れたものの、結果はベスト16とブラボーな戦いぶりでした。さらに会場ではマスクをしている観客はほとんどおらず、大声で自国を応援する観客の姿を見て、コロナ禍からの脱出をようやく感じる事ができ、とても晴れやかな気持ちをもたらせてくれた大会となりました。

ここ数年の世界経済に目を向けてみますと、「パンデミック（新型コロナウイルス）」の発生によって世界中の経済がストップ、誰も経験し

たことのない混迷の期間となりました。その後、世界の中央銀行が経済の停滞を防ぐため、史上例を見ない大規模な金融緩和を実施し、経済の安定化を図りました。ワクチンの普及による感染拡大の収束もあり、経済が回復しましたが、大規模金融緩和の反動で、モノ不足や流通の停滞などによるインフレが世界的に進行しました。2022年に入りロシアによるウクライナ侵攻が始まると、さらにインフレが進行。この勢いを抑えるために急激な利上げを実施するも、市場が追い付かず、リセッション（景気後退）懸念が出てきている現状であります。これらの要因が、わずか2年半に起こったということで、如何に困難な時代を過ごしているかを実感します。

飼料業界においては、引き続き豚熱（CSF）や鳥インフルエンザなどにより、多大な被害が発生しております。ここ数年続く疫病被害の早期終息が望まれます。為替相場に目を向けると、最近はややぐ一段落してまいりましたが、日米金利差の拡大懸念から一時円相場 1ドル=150円台まで値下がり約32年ぶりの円安水準を記録しました。また、トウモロコシ価格は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響が大きく、米国天候不順なども相まって、5月に10年ぶりとなる800cent/buを超える高値圏をつけました。この円安、原料相場高によって、配合飼料価格は2022年1－3期以降3期連続で過去最高値更新となりました。今年度上期の配合飼料安定基金による補填（単価）は昨年度の水準を大きく上回るものとなり、もちろん配合飼料価格の安定化に寄与しているものの、基金財源の枯渇から将来の負担増の懸念が大きくなっています。





いまだ日本では感染者数は少なくなく、平常化にはもう少し時間がかかりそうですが、ワールドカップ並みの盛り上がりを、皆様と日本で一緒にできることを心待ちにしております。飼料輸出入協議会では、引き続き、穀物の安定供給を通じて皆様のお役に立つため、業界の発展にむけて、日本代表のように最後の1mmまでこだわり、現状打破に向け邁進してまいる所存でございます。何卒、今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。末筆ではございますが、皆様の益々のご健勝とご隆盛を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 年頭のご挨拶



農林水産省畜産局長

渡 邊 洋 一

明けましておめでとうございます。

令和5年の新春を迎えるに当たり、年頭のご挨拶を申し上げます。

## ○ 飼料価格高騰について

長期化する新型コロナウイルスの問題や昨年2月からのロシアによるウクライナ侵略、円安の進行などにより、我が国畜産業は甚大な影響を受けました。

畜産業においては、ロシアによるウクライナ侵略の影響でトウモロコシ等の飼料穀物の国際価格が上昇したほか、円安の進行などにより配合飼料価格が高騰しました。そのような中、農林水産省としては、補正予算や予備費により配合飼料価格安定制度における異常補填基金への積み増しを行い、飼料価格の急激な上昇の影響を緩和したほか、9月には同制度の外で、予備費により飼料コスト上昇分を補填する緊急対策を実施したところです。

また、酪農については、他の畜種に比べ、購入粗飼料等の給与量や購入額が大きく、これらの価格高騰等により経営が大変厳しい状況にあったことから、予備費により国産粗飼料の利用拡大を図るための緊急対策も講じました。

引き続き、これらの対策を着実に実施するとともに、畜種ごとの経営安定対策や金融対策など、各種施策を総合的に活用しながら、生産者の皆様が経

営継続していけるよう、支援してまいります。

## ○ 食料安全保障について

ロシアによるウクライナ侵略等の影響で食料安全保障上のリスクが高まっている中、飼料の自給率は25%と輸入に依存しており、価格高騰や供給不安のリスクがあることから、輸入飼料への過度な依存から脱却し、国内の飼料生産基盤に立脚した足腰の強い畜産物生産へと転換することが重要と考えております。

農林水産省としては、飼料自給率を令和12年度に34%に引き上げることを目標として、水田を活用した飼料用トウモロコシ等の生産拡大、地域の飼料生産を担うコントラクター等の飼料生産組織の機能強化、草地の整備等による牧草の収量・品質の向上、国産稲わらの利用促進に向けた耕種農家と畜産農家のマッチングや、稲わら収集に必要な機械の導入、県域を越えた国産粗飼料の広域流通体制構築の実証、低・未利用地での放牧推進、食品残さ等の未利用資源を活用した飼料（エコフィード）の利用拡大などの取組を推進するほか、契約に基づき耕種農家が生産した飼料を畜産農家が利用する持続的な耕畜連携の取組等を支援し、国産飼料の一層の増産と着実な利用の拡大を推進してまいります。

また、化学肥料原料についても、中国を始めとする主要輸出国からの供給が不安定となるなど、食料安全保障上のリスクが高まっていることから、海外からの輸入肥料原料への過度な依存を低減し、家畜排せつ物由来堆肥等の国内資源の利用拡大による肥料の国産化・安定供給を図ることが喫緊の課題となっております。

このため農林水産省では、国内資源の肥料としての利用を拡大し、化学肥料の使用量を削減するため、畜産部門、耕種部門、肥料業者等が連携して取り組む、堆肥等の高品質化・ペレット化など、広域流通等に必要な施設整備や圃場での効果検証、機械導入等の取組を支援することとしています。

## ○ 持続的な畜産物生産への取組

SDGsや環境負荷軽減等を重視する持続可能な食料システムの構築が国際的にも大きな潮流となっており、農林水産省を挙げて「みどりの食料システム戦略」を推進しているところです。畜産分野においても、環境負荷軽減や高齢化に伴う労働力不足、輸入飼料への過度な依存などの課題を踏まえ、「持続的な畜産物生産の在り方検討会」において、その具体的な取組として中間とりまとめを公表しています。

これらの動きを踏まえて、家畜改良、飼料生産、飼養管理、それぞれの面からのアプローチによる環境負荷軽減と、堆肥を利用した飼料作物や農産物の生産を通じた資源循環の促進などにより、我が国の食を支える畜産業が将来にわたり持続的なものとなるよう取組を推進してまいります。

また、我が国の畜産業は、平地が狭く山がちという国土条件の下、生産性向上や規模拡大を進めながら、人が食用利用できない資源を飼料として利用するだけでなく、その排せつ物から生まれる堆肥は、飼料作物や農産物の生産に寄与するという循環型の産業として発展してきました。現在では、農業総産出額の約4割を占め、安全・安心な畜産物を消費者に安定的に供給するだけでなく、地域経済の維持・活性化、良好な景観の形成等の多面的な機能を発揮しています。こうした畜産・酪農の果たしている重要な役割について、国民の皆様にわかりやすく発信していきたいと考えております。

## ○ 家畜疾病（鳥フル・豚熱）

高病原性鳥インフルエンザにつきましては、今シーズンは昨年10月28日に岡山県で1例目が発生して以来、北から南まで全国的に発生が確認されております。今シーズンは、欧州や韓国など世界的にも発生が相次いでおり、日本全国どこにおいても警戒が必要です。

過去最大の発生となった令和2年度シーズンを踏まえて、改正した家畜伝染病予防法施行規則等に基づき、大規模農場における畜舎ごとの飼養衛生管理者の設置、事前の埋却地の確保、発生に備えた対応計画の事前策定など対

策を強化したところです。また、12月22日には関係閣僚会議を開催し、緊張感を持って、政府一丸となって対応に万全を期すことを確認したところです。今後とも各都道府県と緊密な連携を取りながら、緊張感を持って対応してまいりますので、生産者の皆様におかれましても、今一度、飼養衛生管理の徹底をよろしくお願いします。また、配合飼料メーカー等に対し、飼料運搬車両や農場の入退場者等の消毒等の一層の徹底についても要請しているところですので、ご承知ください。

豚熱につきましては、2018年9月に国内で26年ぶりに発生し、昨年11月末日時点で、飼養豚では18県85事例発生が確認されております。2019年10月からは飼養豚への予防的ワクチン接種を実施しているところですが、2020年9月以降、ワクチン接種農場における発生が継続しています。豚熱対策の基本はウイルスが農場に持ち込まれないよう、飼養衛生管理の向上を図ることです。2021年11月からは3か月に一度、飼養衛生管理者による農場の一斉点検を行うなどの取組を実施しており、引き続き、飼養衛生管理の向上に向けた取組を推進してまいります。

また、飼養豚への予防的ワクチン接種によるワクチン接種地域外の種豚等の流通への影響を緩和するため、農林水産省としては、都道府県や生産者団体と連携し、種豚業者と種豚等の供給先である肉豚農家とのマッチングを図るとともに、種豚業者に対する種豚等の供給拠点等の整備に活用可能な支援を実施しております。今後も養豚農家の方々が安定して豚肉を生産できるよう関係者と連携し、種豚等の円滑な流通が確保されるよう取り組んでまいります。

#### ○ 畜産物の輸出への対応等

今後、我が国の畜産業を持続的に発展させていくためには、海外で高まるニーズを捉え、輸出を更に拡大していく必要があります。2021年の畜産物の輸出額は872億円と過去最高となり、2022年はさらに上回る見込みです。政府は農林水産物の輸出額を2025年に2兆円、2030年に5兆円とする目標を掲げ

ており、一層の輸出拡大が必要となっております。

農林水産省としては、本目標を達成するため、牛肉・豚肉・鶏肉・鶏卵・牛乳乳製品を含む海外で評価される29品目を輸出重点品目として設定し、オールジャパンのプロモーション等の取組に加え、畜産農家、食肉処理施設等、輸出事業者の3者が連携したコンソーシアムによる商談会開催など新たな商流構築等への支援を行います。

また、政府一体となって、新たな輸出先国の解禁や牛肉の月齢制限の撤廃等の規制緩和を推進します。

#### ○ 東日本大震災・原発事故等からの復旧・復興

原発事故に関しては、安全な畜産物を供給するため、適切な飼養管理の徹底と検査体制の強化、草地の放射性物質吸収抑制対策と汚染廃棄物の処理等を関係省庁等と連携して推進するとともに、「食べて応援しよう！」のキャッチフレーズの下、被災地及び周辺地域で生産・製造されている農林水産物の積極的な消費拡大を促進しております。本年も、生産者が一日も早く営農再開を果たせるよう、引き続き取り組んでまいります。

また、近年の気候変動による影響もあり、毎年のように大規模な自然災害が発生しています。農林水産省では、畜舎の復旧、簡易畜舎の整備、畜舎・機械の簡易な修繕・修理、家畜導入、災害被害により不足する粗飼料の購入、非常用電源の整備等に対して支援を講じることとしており、皆様が安心して営農できますよう、不測の事態への備えをしっかりと進めてまいります。

農林水産省としては、畜産・酪農の生産基盤の強化に向けた対策を着実に実施するとともに持続的な畜産物生産を推進することにより、厳しい状況を打破できるよう、我が国の畜産・酪農の一層の発展に努めてまいります。

皆様におかれましては、昨年にも増して、畜産・酪農行政へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## シンガポリアン NOW

アジア・大洋州三井物産㈱  
消費者ビジネス開発本部穀物室長

杉村 昌彦 (在シンガポール)



なんだか外国で新しいインフルエンザが流行り始めたらしいとポツポツとニュースになり始め、今一つ真剣に受け止められずにいるままに、マリーナベイサンズで恒例のカウントダウンが盛り上がり、花火がきらびやかに打ちあがったのは3年前の年越しのこと。

年が明け4月、リー首相の「サーキットブレーカー」演説から始まって、そこから2年も続くとは思わなかった「トレストゥギャザー」「ワークフロムホーム」「ステイセーフ」の「追跡隔離と距離確保」の生活が、何かあれば集まって、賑やかで、人懐こい、以前のペースとスタイルに、ようやく、でも本格的に戻ったのが2022年も半ばのこと。

いつも品薄だった抗原テストキットがいつ見ても棚に置いてあり、陽性の報告に屈託がなくなり「何回目？」の会話も普通になりました。そして、サムライブルーのシャツを纏ってくれたシンガポリアンのお兄さんたちで超





市内でのサッカーワールドカップ・パブリックビューイングの様子

満員のスポーツバー、PK外しの悲劇に一緒に崩れ落ちた時、3年振りの対面のD&D（忘年会ですね）、史上最多の300人を動員したと聞いた時、結局YMCAが一番盛り上がり、踊り狂っている友人たちを目にした時、乗り越えたのだ、と思ったのです。

さて、「戦況の推移」が文字通りの本来の意味で使用され、世界が戦況の現実には驚愕し続けたのが2022年だったのではないのでしょうか。力づくの現状変更が21世紀でも起きるのだ、食料とエネルギーが戦略物資だというのは本当だったのだ、インフラやライフラインは攻撃されるのだ、巻き込まれるのは戦闘員だけではないのだ、国際機関は理事国が当事者になれば無力なのだ、などなど。シンガポールも他人事ではありません。なにせ、食料自給率はカロリーベースで10%足らず、電力のエネルギー源はほぼ天然ガスのみで輸入依存度が95%を超えるシンガポールは脆弱で、深刻な危機感に直面しているはずです。しかしシンガポールは、そしてシンガポール人は、驚いてはいるも

根っこにあるのは「戦とはそういうものだ、他国との関係性とはそういうものだ」というとても現実的な意識です。イギリスによる植民地、日本による占領、自治権の獲得、マレーシアからの追放、分離独立、その後の発展。シンガポールが他国のエゴに振り回されてきたのはここ数十年のまだ肌触りの残る現実の出来事なのです。だからこそ、他国のエゴに左右されずに済むような抑止力にもなる経済力の確立、他国を惹きつける魅力ある産業基盤の整備、牽制となるソフト・ハード両面での軍事力の強化、教育基盤の拡充を進めてきて、成功を収めた、とも言えるのですが、根っこには「関係性とはそういうものだ」という現実的な意識、自存以外の選択肢はないのだという意識があるのだと思います。

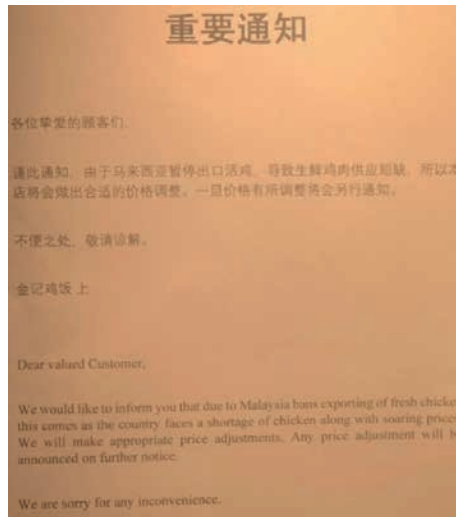
A collection of various instant noodle and snack packages arranged on a wooden surface. The items include several large black packets of Gold Roast, two smaller packets of Fresh Up, a packet of Premier, and several packets of Gold Roast. There are also two packets of Juncitos, a packet of Premier, and a packet of Gold Roast. The packages are arranged in a grid-like fashion, with some standing upright and others lying flat. The wooden surface has a natural grain and is slightly worn.

– 13 –

訓練に参加することが義務で（40歳までに10回！）、有事の徴兵も義務です。規律や機器に慣れ親しむことだけではなく、やはり国防についての意識が高くなるようで、驚かされるのは有事に採用が予想される戦術を結構皆語る、ということです。通信、運転、事務など様々な担当があり必ずしも全員が前線を想定する訓練ばかりではないようです。しかし、訓練から帰ってくると、結構皆語るのです。基本的な戦術の周知徹底が広いレイヤーで行われている効果、と言えると思うのですが、これはサッカーなどのチームスポーツで言う「戦術共通理解」というやつで、これが進んでいるチームとそうではないチームでは、初動や行動に大きな差が出るというのは直感的にご理解いただけると思うのです。いざというときのやるべきことが分かっている、そんな印象なのです。

そんな冷静に見えるシンガポリアンですが、これが旅行となるととたんに羽目を外してしまうからお茶目です。日本入国に陰性証明が不要となったのは昨年10月からですが、以降、いったいいくつの「日本のお土産」を受け取ったことか、途中で数えるのを止めました。日本は大人気で、ニセコ、原宿、箱根、神戸、京都、奈良、博多。2回目、3回目という友人も多く、行先も全国各地に跨りこっちが行ったことないよ、という場合も多数です。共通して言うのは日本は「チープ」。米ドルペッグの「シンドル（SGD）」の対円上昇著しく、昨年9月には遂に100円／SGDを突破、シンドル高でお財布も暖かく、神戸ビーフ、黒豚、お鮓が美味しかったと頼もしく仰います。

一方、帰国したら待ち受けるシンガポールのインフレは、そんな彼らが日本で緩んだ財布の紐を締め直すのには十分過ぎで、半年ほど前の値上げのハイシーズンには、感覚的には、世の中全品値上げという状況で、冗談ではなく屋台、チキンライス、バクテー、野菜、果物、肉、理髪店、マッサージ、家賃、ほぼ全てと言ってよい商品、サービスが1カ月の間に15%以上値上がりました。



昨年 6 月，チキンライス屋台から受け取った重要な値上げ通知

最近では一時よりは落ち着いたようにも感じますが、それは高止まりというもので、最近ではランチの時間帯には目をつぶることが得意になりました。7%の付加価値税に加えて、レストランでは10%のサービス料が掛かります。価格を見てしまったら選べなくなるので目をつぶるしかありません。(ちなみに付加価値税も本年1月から8%に値上げです。嗚呼。)

欧州での紛争は続き、アジアでも寛容さが失われ、金利の上昇はようやく緩やかになるかもしれないが、それは景気後退の入り口で、物価は高止まりのまま。2023年の始まりは不透明な要素ばかりに見えますが、シンガポリアンの友人たちは、彼らの秘訣を使いこなして、今年も逞しく生き抜いていくことと思います。それは、絶対に悲観的にならないこと。彼らは現実的ですが、現実を悲観的に受け取らない天賦の才を持っています。どんな時でも、どんな状況でも前向きに捉えて前に進むこと。友人たちから毎日教えられるとても有難いレッスンで、今年はこれを実践していきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 西アフリカのニューヨーク!? アビジャンより

豊田通商(株) (CFAO Retail Côte d'Ivoire 出向)

中村 哲朗



飼料輸出入協議会関係者の皆様、新年明けましておめでとうございます。西アフリカのコートジボワール共和国アビジャンより謹んで新春のお慶びを申し上げます。

私は2021年9月より東京を離れ、約半年間フランスでの語学研修生を経て、2022年4月から仏語圏西アフリカのコートジボワール共和国に実習生として赴任させていただいており、合計で1年4カ月が経過したところです。

西アフリカという地域は、日本から遠く、皆様にとってなかなか馴染みのない地域かと想像いたしますが、新年のご挨拶の場をお借りしまして、コートジボワールという国を紹介させていただければと存じます。

### ◆コートジボワールおよびアビジャンについて

サッカーが好きな方はコートジボワールの名前をご存知かもしれません。コートジボワールでは、サッカーが人気のスポーツで、2023年のアフリカネイションズカップ開催国にもなっています。過去にはコートジボワール出身のディディエ・ドログバという欧州サッカー界でも活躍した有名選手もあり、彼の名前をご存知の方もいらっしゃるかもしれません。なんとこのドログバという男、サッカーの実力もさることながら、コートジボワールの内戦を止めさせた英雄としても有名で、国民に敬愛されております。

少し前置きが長くなりましたが、コートジボワールの国の基礎情報について触れさせていただきますと、コートジボワールは日本の約0.9倍の国土面積を持ち、約2,700万人の人口を抱えている国です。国の基幹産業は農業で、カオ豆の生産量は年間約200万トンで世界1位です。かつてフランス領であっ



た歴史から、公用語はフランス語、文化的にもフランスの影響を残している部分が垣間見えます。首都は内陸部に位置するヤムスクロですが、実質的首都機能は南の港湾部に位置する最大都市アビジャンにあります。アビジャンは、(おそらく中心部プラトー地区の近代的な街並みやラグーン沿いにある地形と景色から)「西アフリカのニューヨーク」とも呼ばれ、仏語圏西アフリカの経済の中心的な都市となっています。

アビジャンには、近代的なショッピングモールやスーパーマーケットもあります。フランス系の小売チェーンが展開するスーパーマーケットが多く、したがってフランスの製品は比較的簡単に入手することが可能であり、生活用品の品質水準という観点では、先進国から来た外国人でもそれなりに満足のいく生活が送れます。ローカル製造品にも品質が先進国のそれと比べて遜色ないものもあります。余談で恐縮ですが、弊社のグループ会社であるフランスのCFAO社は、フランスのスーパーマーケットチェーン大手のカルフル社とのパートナーシップのもと、アフリカにてリテール事業を展開しており、アビジャンでも複数の店舗を運営しています。(ちなみに、私はこのリテール



大型ショッピングモール内にあるハイパーマーケット (筆者の現職場)

事業を展開する現地法人に実習生として赴任しています。)

### ◆アビジャンの食生活

ローカルフードでは、主食としてよく食べられている料理として、白米，アチェケ（キャッサバ芋の発酵食品），フトゥ（ヤム芋，キャッサバ芋，バナナ等を練ったモチ状の食べ物），アロコ（揚げたブランテンバナナ）等が挙げられます。また，特にアビジャンの中心部では，フレンチやイタリアン，レバノン料理，中華料理，韓国料理，ベトナム料理等のレストランも多く存在しており，総じて食事のレベルは高いと言えます。かつてフランス領であった歴史が，人々の食事へのこだわり（ニーズ）の強さに影響しているのかもしれませんが，残念ながら現時点で私が認識している限りでは，日本人経営の日本食レストランが存在しておらず，したがって，いわゆる“本物の日本食”が食べられないのが惜しいところです。今後，日本企業の当地への進出が進み，それに伴って日本人が当地にもレストランを出店する日が，近い



ローカルな屋台でのランチ  
左下の薄黄色のものがアチェケ



ご当地ビール（イヴォワール）  
CFAO社グループにて製造・販売

将来に訪れればよいなと感じている日々であります。

### ◆アビジャンの交通事情

アビジャンでは、通常のタクシーの他、「ウォロウォロ」と呼ばれる乗り合いタクシー、「バカ」と呼ばれる乗り合いのマイクロバス、路線バスなどが代表的な公共交通機関です。加えて、世界的に有名なタクシー配車アプリの『UBER』や、当地版の『YANGO』も利用可能です。私も初めて当地に来た際はそもそもUBERが走っていること自体に驚いたものですが、アビジャンの中心部であれば大抵の場合、UBERをアプリで配車したら10分以内くらいには来てくれることが多いので、中心部にはそれなりの数のUBERが走っているものと思われます。ちなみに、UBERで配車すると空調の効いた割とキレイな車が来るオプションを選択できる一方で、街中で流しのタクシーを捕まえる場合は当たりはずれがあり、空調も切られたボロボロの車で時に異様な音を出しながら走ったりもして「大丈夫かな、これ？」と心配になることも多いので、もしアビジャンをご旅行される機会がございましたら、UBERアプリをインストールされてからいらっしゃることをお勧めいたします。

### ◆ビーチリゾート

コートジボワール (Côte d'Ivoire) という国名の「コート (Côte)」の部分は、フランス語で「海岸」を表します。その海岸には、当地が南国ということもあって、ビーチリゾートが点在しています。アビジャンからのアクセスの良い、Grand-BassamやAssinieといったリゾート地が有名で、ローカルの人に加えて、ヨーロッパ人が休暇を過ごす場所として人気があります。ビーチ沿いに並ぶアフリカらしさを感じる“チルい”コテージで飲む喉越しの良いご当地ビールは、日頃の疲れを吹き飛ばしてくれる最高の瞬間であり、この爽快な喉越しを味わうために自分は暑くて気候がタフな国にいるのかと錯覚してしまうほどです。





Assinieビーチリゾートでの夕暮れ

#### ◆コートジボワール人の気質

日々コートジボワール人のスタッフと共に仕事をする中で私が感じたあくまで個人的な印象ではありますが、総じてこの国の人たちは陽気で、人情味に溢れているように思います。一方で、あまりガツガツしたような感じはなく、どこか控え目な部分を感じられるところもあり、そういった意味では少し日本人に近いものを感じる時もあります。ちなみに、この国における日本のプレゼンスはまだまだ高いとは言えないものの、日本人に対するコートジボワール人の反応はポジティブなものであることが多いように感じます。私の同僚の若いコートジボワール人にも、日本のアニメや漫画といった文化を通じて日本に興味がある人がおり、「フランス語での〇〇は日本語で何と言うのか教えてくれ」と聞いてくることがあります。アビジャンの中心部にある大型書店（フランス系）では、『ONE PIECE』等の日本の人気コミックのフ

ランス語翻訳版も置いてあり、日本のアニメや漫画が対若者を中心に日本のプレゼンス向上に貢献している部分は大きいのではないかと感じます。

#### ◆おわりに

いかがでしたでしょうか。遠いアフリカの地ではありますが、皆様に少しでもコートジボワールに興味を持っていただけたら幸いです。

末筆ではございますが、飼料輸出入協議会関係者の皆様、またそのご家族のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

### NY ライフ

伊藤忠商事(株) ITOCHU International Inc. 出向

小國 聖仁

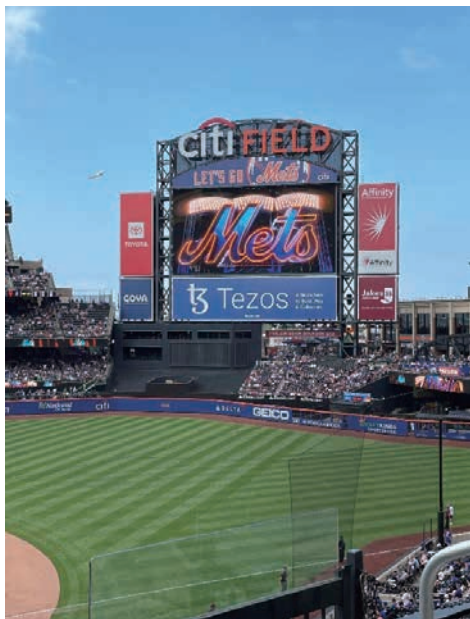


明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。今年もどうぞよろしく申し上げます。昨年10月発行の「各地の食生活」にてニューヨークの食文化について話をさせていただきましたが、今回は少し幅を広げて、ニューヨークでの生活、観光についてお話しさせていただきたいと思っています。

#### ◆スポーツ

アメリカの3大スポーツは言わずもがな、野球、バスケット、アメフトですが、ニューヨークでは何ととっても野球で、メッツ、ヤンキースの本拠地があります。シーズン中の試合日は毎日賑わっていますが、大谷翔平選手が来るとなると、3塁側はほぼ日本人で埋まります。私も昨年はヤンキーススタジアムで2回、シティフィールド（メッツ）で1回、計3回観戦しましたが、当時はアーロン・ジャッジがホームラン新記録に挑んでいた時期で、ヤンキ

ースタジアムは満員の観客の熱気で凄かったです。ヤンキースは言わずと知れた超エリート球団ですが、メッツも負けていません。メッツのオーナーは資金力にものを言わせて超高額トレードで戦力強化を行い、メンバー全員の年棒だとヤンキースよりも上です(2022年12月時点)。写真はメッツの本拠地のシティフィールドの様子ですが、球場内はとても綺麗で、緑の芝と青空のコントラストが映えます。ちなみに野球場近くのパブリックビューでも試合観戦できるので、安く楽しく観戦したい、飲みたい方はそちらの方がおすすめです。



#### ◆セントラルパーク

私は毎週末セントラルパークの周りを走るようにしています。公園の内周は1周約8km、外周は10kmとなります。週末は観光やイベントで賑わっていますが、私と同じようにランニング(ウォーキング?)している方も大勢います。中・高校と陸上部に所属していた私は当初「コース的に余裕だな」と考えており、日本から履いてきたスニーカーで初陣に挑んだのですが、公園内はきついアップダウンが多くあり、初老の方に追い抜かれたときはメンタルブレイクしました。今では玄人ランナーに混ざり何とかついていけるくらいにレベルアップしましたが、いわゆるガチ勢からしてみれば邪魔以外の何者でもないと思います。こちらに来て全く運動の機会がなくなってしまったので、頑張って汗をかこうと続けています。



公園内は数多くの広場，野球場，イベント会場があり，それぞれのアクティビティを楽しむことができます。個人的に驚いたのは，老若男女フリスビーがとて上手で，背面キャッチ，背面スローなど何のその。聞くと，小さい頃から遊びでやっていた，そうです。セントラルパークにはスミソニアン博物館や動物園も隣接しており，1日使っても回り切れないくらい見どころがたくさんあります。

#### ◆ブルワリー



ニューヨーク州には数多くブルワリーがありますが，中でもブルックリン地区が聖地として有名です。1ポイント＝約500mlを\$7～9で，種類豊富なビールを店頭で楽しめます。日本と違い街中で飲酒するのは違法ですが，パブリックビューのように店頭近くであれば飲酒が可能です。お店によりますが，スナックなどを持参して，買ったビールのおつまみとして楽しむことができるお店も多く，私



はよくポテトチップスを持ち込んでいます（写真：ブルックリンのブルワリー店内の様子）。

ブルックリン地区は今となつては観光名所が多々ありますが、かつては倉庫街や工場地帯という位置づけで比較的治安の悪い地区でした。現在は再開発が進み、残った建物の良さを生かして、洗練されたおしゃれエリアに生まれ変わっております。今でも年に数件は抗争事件があるようですが、それでも少なくなった方と聞きます。居住区は白人、黒人、ユダヤ系にそれぞれ分かれていきます。コロナが大流行した際はブルックリン地区の南エリアでアジア人へのヘイトクライムが多発しており、人種的差別の風潮もまだ少しは残っているようです。

#### ◆夏の風物詩

7月4日はアメリカ独立記念日で、毎年盛大な花火大会が開催されます。マンハッタン近郊ではイーストリバーに並んだ5つの岸から1時間もの間、約48,000発の花火が絶え間なく打ち上げられます。私は昨年見物に行き、開始5時間前に余裕をもってブルックリン地区のイーストリバー沿いの場所を陣取ろうと現地に着いたところ、既に埋まっておりました。ベストポジションは叶いませんでしたが、何とか花火の見られる場所を確保できました。聞くところによると、富豪勢はマンハッタンのイーストリバー沿いの高層階のレストランから観覧し、一般人は対岸から見る（無料）のだそうです。完全に富豪勢から見下されていた構図でした。私もこれほど大量な花火



が打ち上がるのを見るのは初めてでしたが、この大量の花火はアメリカ独立戦争当時の大砲、武器を使い勝利を勝ち取ったことを誇っての催しであるようです。7月4日は全米各地で花火が打ち上げられますが、昨年は残念なことに花火打ち上げと同時に12件もの発砲事件が起きたとのことで、観覧にお出かけになる際はご注意ください。

## ◆クリスマスシーズン



こちらでは11月24日のサンクスギビング（勤労感謝）が終われば、クリスマスシーズンが本格化します。街中に巨大なクリスマスツリーが飾られて、至る所からマライアキャリーの音楽も聞こえてきて、公園ではクリスマスマーケットが開催されます。マンハッタン の5番街は、ロックフェラーセンターのツリーの点灯式、プロジェクトマッピングなどの催し事で大変賑わいま

す。通行人からしてみればいい迷惑で、前に進むどころか後ろに後ずさりしないといけなくらい混み合います。行事ごとに疎い私ですが、昨年初めてクリスマスツリーを買い、ブラックフライデーの安売り時にグッズを買い込み、デコレーションして家族で楽しみました。12月になると街中でもみの生木が売られており、担いで帰るサラリーマンもちらほらいました。クリスマスシーズンが終われば、街中にツリーが捨てられているそうです。（写真：街中で売られるもみの生木です）



## ◆自由の女神像

ニューヨークのシンボルと言えば自由の女神像であり、マンハッタンから船で10分ほどの孤島に位置しています。勿論、その島に上陸して女神像を下から見物したり冠の展望台まで登ることはできますが、個人的にはクルージングで海の上から観覧するのが一番効率良いと思います。確かに、自由の女神像を近場で見る迫力はすごいです、



長蛇の列に並ぶ時間と労力を考えると、少し遠めでも十分に楽しめるクルージングがお勧めです。このクルージングは大人1人25ドルくらいで、マンハッタン島をぐるっと1周プランもあり、自由の女神像だけでなく、ブルックリン橋やニュージャージーの川沿いなども観覧でき、ガイドが細かく紹介してくれます。冬場は暖かいコーヒーを飲みながら暖房の効いた船内から観覧は如何でしょうか？勿論、デッキからの展望も可能ですが、とてつもなく寒いです。

## ◆物価事情

2022年12月上旬の為替は1ドル135円程度ですが、少しニューヨークの物価にも話を触れておきたいと思います。基本的に欲しいものはニューヨークで手に入れますが、やはり高いです。特に我々日本人が馴染み深い日本食はとても高く、日本製の生活用品も割高です。中でもお米の値段は米国内の物流費によって大きく前後するため、先週15ポンド（6.5キロ）35ドルのお米が、今週は50ドルということもしばしばあります。私は週末に家族総出で近

くの日系スーパーに買い出しに行くのですが、毎回買う納豆は3パックで3ドル（400円程度）、お味噌、お醤油などの調味料も同じように割高です。ニューヨークのおおよその物価は日本より3～3.5倍と考えて差し支えないと思います。一方で、コストコなども利用しております。シャンプー、リンス、歯磨き粉、洗濯剤などの日用品は大量購入で割引がされるので、そこまで高くない印象です。缶ビールは48本入りで40ドル程度と日本よりも割安で、つつい購入してしまいますね。

ニューヨークでは目白押しのスポットやイベントが数多くあり、わざわざ旅行しなくてもニューヨーク内で完結してしまうほどです。お越しになられた際は、是非その時期にあったアクティビティをお楽しみください。

## ベトナム生活の幕開け

双日(株)生活産業・アグリビジネス本部  
食料事業部 プロテイン事業課

山本 智史



### <挨拶>

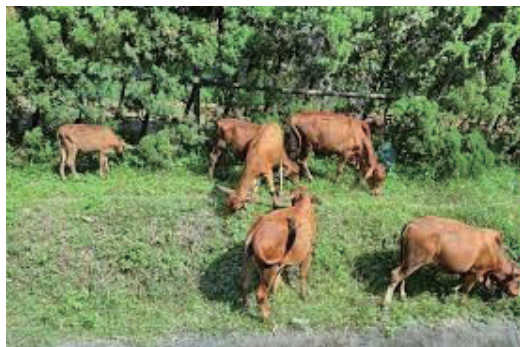
皆様、新年あけましておめでとうございます。ホーチミンより謹んで新年のお慶び申し上げます。

ベトナム乳業メーカーのVinamilk関連会社との合弁会社（Japan Vietnam Livestock Company Limited）に、昨年9月より出向しております。まだベトナム生活が4カ月程度と短いですが、当方の感じるベトナム（ホーチミン）について、皆様にご紹介出来ればと思います。

### <食生活>

ベトナムと言えば、豚肉文化ですが、意外にも（？）牛肉が食されています。牛肉のフォー（米粉から作られた麺）は、牛骨からスープを取り、具に

はすね肉やバラ肉を使用します。日常生活に牛肉が根付いている一方で、牛肉の質を見てみると、固い牛肉が多く、牛肉の使用用途は煮込みが中心となっています。これは、ベトナムで食されている牛肉が、在来種の黄牛や、インドから輸入される水牛（Buffalo）を使用しているためです。ベトナムの方にとって、ベトナム産の牛肉は固くて、脂がのっていない肉という認識があり、柔らかい、脂がある程度の牛肉は米国や豪州、カナダからの輸入ものが中心になります。



ベトナム在来種の黄牛



フォー／ベトナムではすね肉が人気です

なお、日本からも和牛が輸入されていますが、超高級品のため、スーパー等で見るとは殆どなく、代わりに豪州のWAGYUが、レストランやスーパーでよく提供されています。ベトナム、特にホーチミンでは、既存スーパーチェーンの店舗数の増加及び新興スーパーも出てきており、質の高い食品を求める顧客が増えてきていると感じます。また、元々は野外市場（所謂Wet Market）のお肉は“新鮮”（夜中に屠畜して、翌朝には市場に並ぶ）で美味しいというのが通説でしたが、若い方の間では市場の衛生環境は決して良くなく、スーパーで買うパッケージに入った肉の方が安心という認識はが着実に広まっており、経済成長に伴う、食文化の変化と共に美味しく牛肉が求められるようになるんだろうなと感じます。我々の事業の話になってしま

いますが、そんな食の変化に合わせてベトナム産のより品質の良い牛肉を生産し、お手頃な価格で消費者の方々に提供していきたいと思っております。

## <インフラ — 渋滞 & 洪水>

ホーチミンに住んでみて日本と違いを大きく感じる点として、交通渋滞が挙げられます。バイク王国のベトナムでは、二輪車販売台数が年間250万台程度あり、ここ最近では2018年をピークに減少が続いていますが、既に2人に1人がバイクを持っている状況で人々の日常の移動手段となっていることはみなさんも良くご存じかと思います。自動車（四輪車）は、年間約40万台が販売されており、こちらは毎年販売台数が増加しています。バイクが縦横無尽に走り回る中で、自動車も負けじとどんどん攻めるので、道路の真ん中で車が立ち往生ということも珍しくなく、渋滞が起きる要因になっています。特にホーチミンのような都市では移動の時間が読みにくくなっており、悩みの種になっています。将来想定される渋滞などの対策として、鉄道の整備が急がれますが、2010年に着工した1本目の鉄道は、元々は2015年に開業予定でしたが、未だに完成していない状況です。（現時点では2023年末完成予定とのことですが、果たして当方駐在中に完成するかどうか…）最終的に、220km



に及ぶ8本の鉄道網の建設を予定しており、“完成すれば“渋滞緩和に大きく役立つのではないかと期待されます（ベトナムの一つの特徴として、決めたことは時間が掛かるものの最終的にはやり切る

というのが、当方が感じる点です)。

もう一つは洪水です。ベトナムでは特に下水道のインフラが脆弱で、スコールが降るとすぐに大きな水たまりが出来、雨量が多い場合には低い土地を中心に洪水が頻発します。都市開発



が進み、舗装エリアが増えることで、土が水を吸収しなくなり、さらに下水道インフラが整っていないため、洪水が起こるとというのが現在のホーチミンの状況です。ベトナムでは地下水が多く利用されており、ホーチミンは平均して毎年2～3cmほど地盤が沈下していると言われており（酷い所は過去10年で80cmも地盤が沈下しているそうです…）、これも道路に多く凹凸が出来る原因となっています（渋滞要因になりますね）。既にベトナムの平均所得はUS\$3,000を超えており、都市ではUS\$6,000を超えているため、モータリゼーションが着実に進んでいます。道路、鉄道、下水などのインフラ整備が今後、同国が直面する大きな課題になることは間違いなく、生活をする身としても注目（心配）しています。

## ＜サッカー＞

ベトナムで外せないのが、ベトナム人のサッカー熱です。昨年は、カタールワールドカップが開催されましたが、当地でも多くの方がテレビ観戦しており、盛り上がりを見せていました（賭けの対象であることも盛り上がりには拍車をかけているようですが）。ベトナムは、最終予選まで進んだものの、グループ最下位（6チーム中）に沈み出場を逃しました。一方で、昨年5月に開催されたU23を対象にした東南アジア競技大会（SEA Games31）では大会2連覇を果たすなど、サッカーの実力が着実についてきていることを感じま





優勝し、街中が大騒ぎで大渋滞が発生

す。ベトナムの若者を見ると、身長が180cmを超える人も珍しくなく、従来の俊敏性に加えて、身体的な強さも備わってきているのだろうと感じます（ベトナム人男性の平均身長は168cmで、ここ10年で4cm伸び

ています。ちなみに日本人男性の平均は171cmと、殆ど変わりません）。当方は、ベトナム人の同僚に“次のワールドカップ（2026年）は、ベトナムは間違いなく出場出来る！”といつも話していますが、誰も信じてくれません（笑）。次のワールドカップは出場国（自動出場権）が4カ国から8カ国に拡大することもあります。身体も技術も成長を遂げるベトナム代表の明るい未来を信じずにはられません。ちなみに、同僚の弟がベトナム代表でプレーしており、彼がワールドカップに出場出来たら、また観戦の楽しみが増すなどと思っています。

## ＜最後に＞

2023年は、1973年に日本とベトナムが外交関係を樹立して50周年の年となります。50周年を記念して様々なイベントがベトナム全国各地で開催される予定です。ベトナムへ進出する日系企業は毎年増えており、今後も益々両国の関係が深まっていくことと思います。当社もベトナムの方の生活を少しでも豊かに出来るような取り組みを行っていくことで、両国の関係強化に寄与出来ればと思っています。

最後になりますが、2023年が皆様にとって充実した素晴らしい1年になることを祈念しまして新年の挨拶と代えさせていただきます。



# BULGARIA IN A GLIMPSE

東食スキポール支店

Vladimir Krachunov



COUNTRY PRESENTATION

## BULGARIA IN A GLIMPSE

By Vladimir Krachunov

TOSHOKU SCHIPHOL OFFICE

Happy New Year to the members of the Japan Feed Trade Association. I am glad that I can give a little presentation of my home country.



Bulgaria is one of the oldest countries in Europe, its foundation dating to more than 1300 years ago. An interesting fact is that it is the only country in Europe which has never changed its name since it was established in 681 AD. Bulgaria is a relatively small country but very diverse in its nature with many mountains, hiking trails, lakes, rivers and a seaside. Some say that "where the mountains stop, starts the sea".



## "WHERE THE MOUNTAINS STOP, STARTS THE SEA"

Due to this, the country is a popular tourist destination both in the summer and winter due to its sandy beaches but also extensive mountain range. Bansko is a popular ski destination with Alpine Skiing World Cup starts being held there recently.

Bulgaria is a home of many beautiful nature spots, like the Prohodna Cave with its amazing shape -the two eye-like holes in its ceiling which have come to be known as God's eyes.

Or the famous Seven Rila Lakes in the Rila mountain range – the highest mountain on the Balkan Peninsula.

The capital of Bulgaria, Sofia is a beautiful European city with the typical Eastern Europe type infrastructure. In the center of Sofia you can find Alexander Nevski Cathedral – one of the symbols of the city with its famous gold plated dome. The area around it is a popular leisure spot for the locals in the heart of the city.





## "FROM THE ROSE VALLEY TO THE VILLAGES OF THE SOUTH"

One product, that the country is famous for around the world is the Bulgarian rose oil – a rare luxury product coming from the flowers of the so called "Rose Valley". Bulgarian rose has a variety of purposes - from perfume to health benefits for the skin.

And finally, one cannot talk about Bulgaria without mentioning yogurt, the healthy food known around the globe, which is produced using a culture from the so-called *Lactobacillus Bulgaricus* bacteria,

owing its name to its discovery in Bulgaria in the beginning of the 20th century. And the homemade local yogurt from the people in the mountain villages in the South of Bulgaria is truly a magic for the senses to taste. I can confirm that from my own experience.

Even though I have been living in the Netherlands for more than 16 years now, I always treasure time when I can go back to family and experience the nature, cuisine and charm of Bulgaria.



## ノースダコタでの暮らし

丸紅(株) (Columbia Grain International ノースダコタ駐在)

柁 拓郎



飼料輸出入協議会会員並びに関係者の皆様，新年明けましておめでとうございます。Columbia Grain International（ノースダコタ）赴任中の柁と申します。赴任前は大変お世話になりました，誠にありがとうございました。2022年6月中旬にノースダコタ，ジェームスタウンに位置するシャトルエレベーターにて勤務を開始し，早半年が経とうとしております。アメリカ人でも「ノースダコタってどこだっけ？」と呼ばれる州ではございますが，こちらでの生活を以下にてご紹介させていただきます。

### ●ノースダコタ州の概要

2022年春先に米国北部を襲った猛吹雪と大寒波は記憶に新しいかと思いますが，州の北側はカナダ国境であり，北緯45度（日本ではほぼ稚内の緯度）と寒冷地帯であり，7月の平均最高気温は28度，最低気温は16度とそれなりなのですが，1月だと最高気温-7度，最低気温-16度を記録します。ちなみに，冒頭記載した今年春先の猛吹雪時には氷点下30度を記録したとのことで，4月でも気を抜けないというのがこの地区での農業の過酷さを物語っているとも言えます。人口は約800,000人と全米で下から4番目，人口密度も4番目に小さく，人口最大都市のファーゴでも約125,000人となっております。

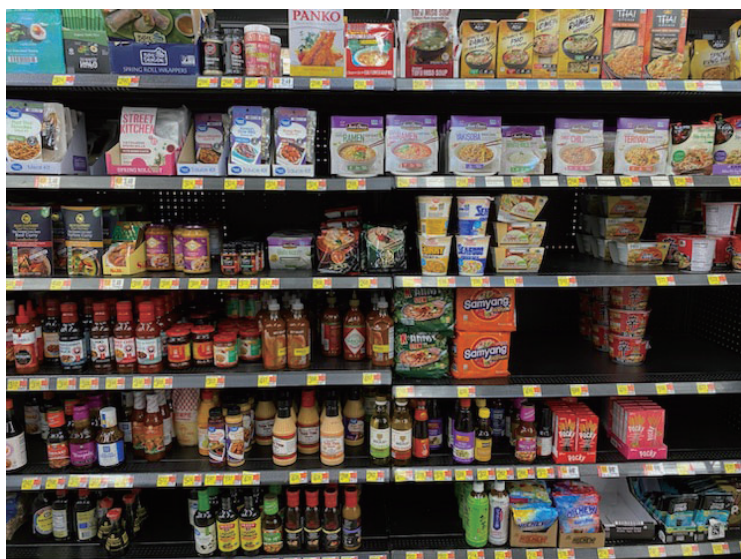
### ●食環境について

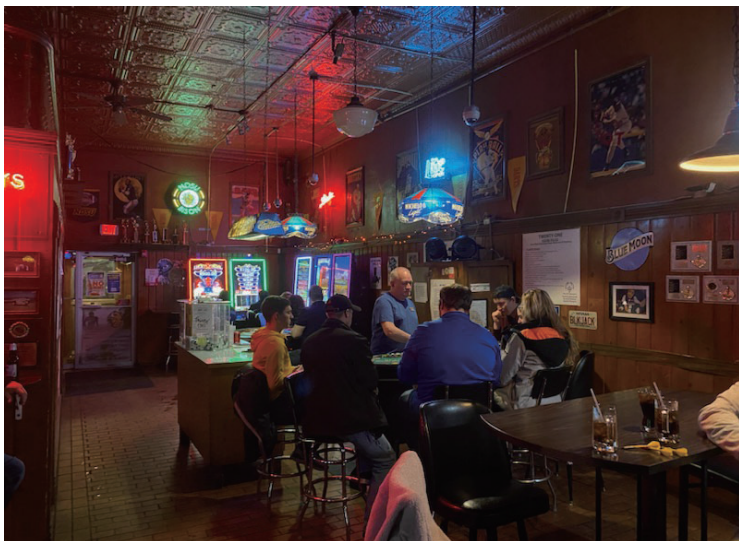
実際に私が生活しているのは人口15,000人のジェームスタウンと呼ばれる町です。赴任前には人並みに生活出来るのかやや不安でしたが，スーパーが3店舗，ハンバーガーチェーンも5～6店舗，そして日本料理屋（店名：泉



IZUMI SUSHI&HIBACHI※少なくともノースダコタに点在する日本料理屋の店名にはHIBACHIが入っていることが多く、何故か日本料理＝火鉢なようです）もこの春に出来るなど（さすがに日本人ではなく中国人経営）、不便なく生活出来ております。このような小さな町では各商品に特化した専門店はなく、基本的にウォルマートがイオンのような総合スーパーの役割を担っており、私も赴任時は生活用品のほとんどをウォルマートにて購入しました。町内にあるスーパー全てに日本食材は置いてあるのですが、その中でもウォルマートの品揃えが最も豊富なので簡単にご紹介したいと思います。

写真右側が主にインスタント食品・お菓子、左側に調味料系となっておりますが、やはり一番有難かったのはカップ麺・袋麺があったことです。それぞれ価格は\$2～3（300～400円前後）と日本対比当然高いのですが、最初に目にした時の感動は忘れられず、私以外に日本人も住んでいないことから、赴任の6月以降いきなり需要が上がったことにウォルマート側も驚いたことと思います。ほぼ毎日と言っていいほどお世話になっており、改めて食品メーカー様及びウォルマートのカバー範囲の広さには大変感謝をしております。





### ●ダウントウンでの娯楽について

小さい町ですので娯楽と言えるほど特筆して何かがある訳でもなく、やはりお酒に尽きます。ダウントウンにバーは3～4軒しかなく、毎週末同じローテーションにて店を回り、毎週同僚とお酒を飲むのが私自身にとっても楽しみとなっております。ノースダコタではギャンブルが合法となっており、下記のように各バーにはブラックジャックのテーブルとスロットマシンがあり、週末お昼には高齢層を中心としたビンゴ大会も行われ、人数にもよりますが一等\$2,000～3,000になることもあります。ブラックジャックの掛け金は\$1～25なのですが、当然数多く来店する農家もギャンブル好きで、常にMaxベットし続けるなど、こういったふとした時にもいかに農家がリッチであるかを実感します。Uberのサービスもないため、複数台存在するタクシーで知らない人とも乗り合わせて帰るのもこの町ならではの光景です。

### ●アウトドアアクティビティについて

大自然のため皆アウトドアアクティビティに熱心で、幾つかご紹介したい





と思います。

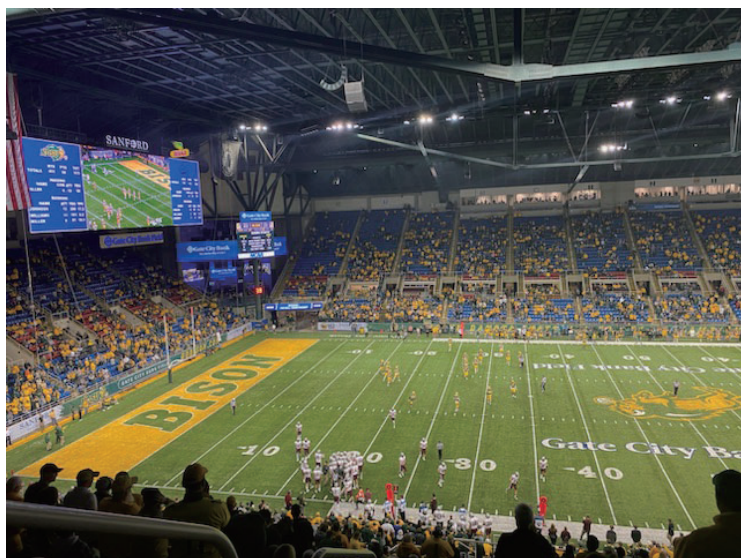
代表的なのがハンティングです。直接的には関係ないかもしれませんが、ノースダコタ州は共和党色が強く銃規制に関しては非常に緩く、銃保持に対して寛容的です。店では数百ドルで小型銃が買えるなど（免許必要）、中には数十もの銃をコレクションし、こういったことの延長線上にハンティングがあるとも言えます。もちろんハンティングもライセンス必須で、ハンティングの時期も明確に決められておりますが、代表的にハンティングの対象となる動物は鹿です。町内でもよく親子で道路を横断する様子が見られますし、ハイウェイでは車に轢かれて横たわる鹿も頻繁に見受けます（鹿注意の標識も掲げられ、車両保険項目に動物との接触があるのもノースダコタならではのようです）。以下は当エレベーターマネージャーがしとめた鹿の写真です。この他にもキジ、コヨーテ、あひる、ヘラジカ、など季節・場所によって多様なハンティングが楽しめます。

その他にもアイスフィッシングも盛んで、小屋の中にヒーターを持込、快適な環境で一日中楽しむことが可能です（奥にはサイロビンが見えます）。



また、コーンホールと呼ばれるゲームも夏には盛んに行われます（以下左写真、当時の写真を撮り忘れたのでサイトから引用しております）。文字通り元々はコーンを袋の中に入れて、相手の台の穴目掛けて投げて点数を競い合うというゲームです。中西部発祥のゲームで今でも各地で行われており、日本にもコーンホール日本協会があるようです。非常にシンプルで費用も掛からず老若男女楽しめるので、近いうちに皆様も日本で体験する機会があるかもしれません。また、写真右側はもっとシンプルなゲームで、各自毎ターン





とんかちを一振りして、いかに早く釘を木に差し込めるかというゲームです。腕力のみならずミート力も試されるので、これも意外に盛り上がります。各町の集まりではこのようなアナログなゲームが今でも開催されており、ほっこりする時間を味わうことができます。

また、ノースダコタにはプロスポーツチームがないので、バイソンと呼ばれるノースダコタ州立大学のアメリカンフットボールチームが人々のアイコンとなっており、週末スタジアムやバーでお酒を飲みながら観戦する姿がよく見られます。ちなみにノースダコタでは野生のバッファロー（別名バイソン）を見ることが出来、州を象徴する代表的な動物となっていることからこのチーム名となっております。

## ●最後に

以上、写真が多くなってしまいましたが、簡単にノースダコタ州での生活をご紹介させていただきました。人口15,000人と聞くと驚きを持たれるかもしれませんが、中には50～100人規模の小さな町も点在しており、ほぼ100%

大きな穀物サイロが町の中心に建っております。それくらい農業が根付いた州であり、だだっ広い土地で多くの野生動物と厳しい気候条件下人間が共存しているのがノースダコタ州です。来年は気候が味方し数多くの穀物が皆様の元に無事に届くことを祈りつつ、素晴らしい一年となることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

## ゼロコロナ政策が私にもたらした食と生活

兼松（中国）有限公司 上海支店

升井 健吾



会員の皆様、関係者の皆様、新年あけましておめでとうございます。

2022年の1月より上海に赴任しており、当地では初の新年を迎えることになりました。ご周知の通り中国では旧暦の正月がメインに位置づけられており、新暦の正月はそれと比較すると盛り上がりには欠けますが、それでも上海の街は新年モードになりつつあり、微かにお正月気分を味わうことができます。中国ではつい最近まで厳しいゼロコロナ政策が敷かれており、赴任したての頃は食材を買いに外に出られないような環境でした。今では状況が少し変わり、外出することができ、規制がある中でも中国ライフを楽しんでいます。ここでは中国ゼロコロナ政策が私にもたらした食、及び生活への影響を簡単に以下紹介したいと思います。

2022年1月に当地に赴任し、もうすぐ1年が経過しますが、既に累計隔離期間は3カ月を超え、特に上海での3～5月の長期ロックダウンにおいては、私に大きな影響を及ぼしました。

当初は4日間だけのロックダウンという予告があり、調理器具自体をまだ保持していなかった私としては、良いダイエットになるとばかりに数十本のバナナとヨーグルトの備蓄でこれに耐えようとしていましたが、4日間が経過し





中国入国時の際の隔離飯。このときはまだ中華飯自体が珍しく、全ておいしく頂いていた  
でも、ロックダウンは終わる気配がなく、バナナ・ヨーグルトは底をつきか  
けました。これはまずいということで、拙い中国語を駆使し、隣人から調理  
器具・調味料を調達したものの、一方で調理器具を揃えたところで、調理す  
る原材料自体がなく、家にある物品との物々交換や、単純に拝み倒すことで  
原材料を獲得し、なんとか日々を過ごしていきました。そうして時間の経過  
につれ、一部隔離から解放された同僚や知り合いが、有難いことに物品を差  
し入れてくれ、食の問題は徐々に事なきを得ました。

一方で、人間食欲が満たされてくると違うことが気になるものであります。  
ロックダウン生活も2カ月近くなり、今度は猛烈に髪を切りたくなってしま  
いました。いつまでロックダウンが続くか分からないという状況から、我慢でき  
なくなり、ついぞ5月30日に自宅にあるハサミで散髪に挑戦しました。その  
結果、ある意味で当然ではありますが、頭髮は大変な不均一になってしまい  
(下段中央写真参照)、しかも6月1日にはロックダウン終了してしまい、嬉  
しい反面、外を歩くと道行く人に振り向かれるという状況になってしまいま  
した。さらに悪いことに、客先から会食に誘われ、さすがにこの頭で行くわ  
けにはいけないということになり、時間の経過により均一に髪が生えてくる  
のではという淡い希望を捨て、すぐに頭を丸めることにしました。(下段右側  
写真参照。一緒に写っている女性は、私に食糧を供給し続けてくれた隣人)。  
こうして私のロックダウン生活は漸く収束しましたが、最後にこのような生  
活下にあったにも関わらず、体重は2カ月で5kg増量するという人体の不思  
議をも味わうことになり、ますます食の大国中国で食の魅力に取りつかれた  
のでした。





上海ロックダウン時の隔離飯、生活の様子。当時はまさかこの後も隔離が発生するとは思っていなかった

日本においても、コロナの猛威は続いていると聞いております。関係者の皆様におかれましてもお体ご自愛ください。

## 常夏シンガポールより新年のご挨拶

Agrex Asia Pte. Ltd.

石川 英樹



皆様，新年明けましておめでとうございます。

謹んで新年のお慶び申し上げます。

2020年2月から始まったコロナウイルス，間もなく3年が経とうとしておりますが，漸く昨年途中から元の行き交う世界が戻りつつあることを喜ばしく思っております。今年は更なる世界の回復を祈るばかりです。

### 【シンガポールの変遷ぶり】

当方はそんなコロナ真っ只中の2021年9月に当地に赴任しました。早くも

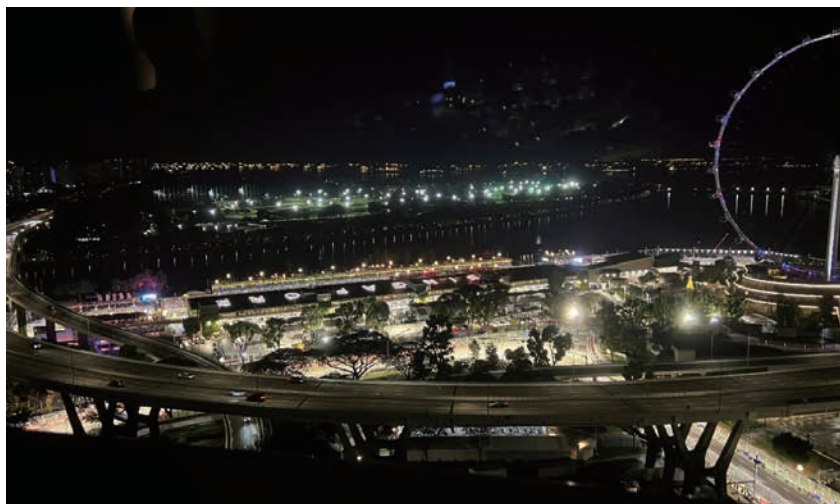
1年強が過ぎて時の速さに改めて驚かされます。実はシンガポールには大学1年生の時に1カ月強交換留学で滞在をした経験がありました。今思うと18年前のシンガポールは今ほどの大都市ではなく、まだ様々なアジア異文化が入り混じったアジアの一都市ぐらいの規模でした。今でこそシンガポールはアジアを代表する都市まで成長をしたと言えるかもしれませんが、当時は為替も60円台、学生ながらタクシーを乗りたい放題使っていた記憶があります。今や国のシ



ンボルとなったマリーナベイサンズやリゾートワールドセントーサ等、着工はしていたものの出来ておらず随分と異なる様相でした。生活面では今の様に高級料理店だらけではなく、ホーカー（屋台やフードコートのような店舗）が主流で500円も出せば食べ切れないほどの料理が出てきた記憶があります。また、今のように全てがスマートフォンやITで管理されているような国でもありませんでした。日本が経済的に停滞していた15年間に大きく成長したと言えます。

### 【シンガポールのコロナ】

当方が赴任した1年前は未だコロナ規制最中で到着時は2週間のホテル隔離からスタートしました。当時はアプリで居場所が全て管理され全く自由の利かない生活で、外食も2名までと規制があり、会食どころではなく街中見ると家族ですら皆で食事をする事が出来ない環境でした。それが突如21年

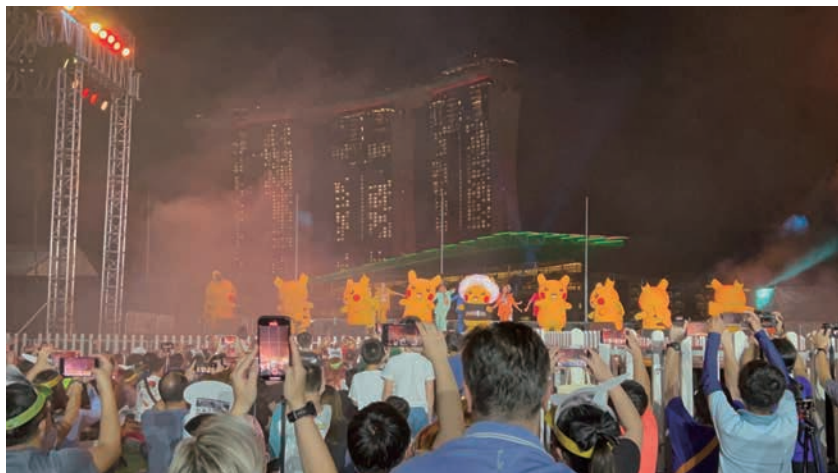


4月末に規制が緩和され、一気にコロナ前に近い運用に戻り、そこからあつという間に今のポストコロナの状況まで戻り、アジアでは一早くコロナ前を取り戻した国となったかと思います。

去年はシンガポールもコロナで2年間取り止めてきたイベント等を再開する年となりました。当方も一番楽しみにしていたイベントでシンガポール1のイベントと言っても過言ではないF1も再開がされました。3年振りの開催となり開催期間中は多くの外国人関係者や旅行客で賑わい30万人を超える過去最多の入場者だったことも大きなニュースとなっていました。

家族で楽しめるようなイベントも多く戻ってきており、当方も娘の要望で参加したポケモンイベント@マリナーベイは日本との合同イベントで参加者多数で入場打ち切りとなる等、当地ではすっかりコロナ前の状況が戻りつつあります。一方で急激な水際緩和を受け労働力を外国人ワーカーに頼っているシンガポールではまだまだ労働力が戻っておらず、今後の課題も多く残っています。

サッカーワールドカップも無事終わり、今後世界でも必要な対策がされながら少しずつでも交流の場が戻って来てくれることを願います。



## 【最後に】

2022年も本当に様々なことが起きました。まだまだ世界がコロナで落ち着かない中、我々穀物業界ではロシアに因るウクライナ侵攻が最も大きなイベントの一つと思います。侵攻は想定よりも長期化・泥沼化しており、この影響を受けた商品市況や実需混乱の終わりが未だ見えません。日本では安倍元首相が銃撃される等まだまだ記憶に新しいものもあります。2023年も多くのことが起きるかと思いますが、まずは目の前の仕事に全力で取り組むことから始め、引き続き成長市場の東南アジアというマーケットで何が出来るかを考えていきたいと思っております。日本は正月を終えて新年明けスタートとなっているかと思いますが、ここシンガポールではこれからが正月の本格スタート。今年は1月22日から16日間お祝いが続きます。異国の文化に触れながら今年の1年をスタートさせたいと思います。

末筆ではございますが、皆様のご健康、ご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## ヘッジについて

飼料輸出入協議会 専務理事

姫野 健二



昨今の相場に憂いを感じる人が多い。確かに穀物の国際相場が上昇し、円安も相まって、穀物の輸入価格が高騰し、これに伴って国内物価も上昇した。その一方で給料は上がらない。「先物市場を使つてのヘッジでこの相場上昇を何とか乗り切れないのか？」という意図で、ヘッジについて質問されることが急に増えた。そこでヘッジについて知っていただくために、本誌上で説明しようと思う。

### 1. ヘッジとは

まず忙しい方のために結論から申し上げる。「昨今の穀物相場の上昇をヘッジで上手く回避できるか？」との質問に対しては、明確に「No」とお答えをする。

「相場が上がりそうだから先物を買っておく」とか、「相場が下がりそうだから先物を売っておく」というのはヘッジではない。相場が予想と逆の動きをしたら、損をするからである。将来の相場を予想して「先に売る」、「先に買う」ことは投機的行動であり、ギャンブルと言えなくもない。もっとも、一般的に投機的なトレードをする人は、相場の方向性を判断するために必死になって勉強し情報収集もしているため、投機的行動をギャンブルと断じるのはトレーダーに失礼になることも申し添えておく。

改めてヘッジとは何か。色々な言い方があるが、要は「コスト、マージンを確定させ、その後の相場変動の影響を防ぐことを目的とする現物の取引と反対の先物取引。」である。相場変動でマージンが悪化するのを防ぐ一方で、



改善の可能性を放棄するという面もある。

## 2. 具体例の説明

### (1) 穀物加工業者の特徴

飼料メーカーは、コーン、大豆粕、その他多くの原料を調達し、飼料を製造する。加工、運賃を抑える工夫、さらに畜種、生育段階等を考慮した最適な栄養バランスにするなどで、同業者との差別化を図っている。

飼料の他、コーンスターチ、搾油、製粉も同様で、いずれの業種も原料代のウエートが高いことに加え、製造コストに占める固定費の割合が大きいので、採算度外視の安売りを避けつつ一定水準の生産量を確保することが、収益の維持のために重要である。

### (2) ある穀物加工業者の原料調達

この項では問題の本質を分かりやすくするため「製品の売値が常に一定である」という前提で話を進める。また工場持込価格と先物相場の差（これがベシスと言われるもの）は常に▲50（通貨単位）であると仮定する。また先物市場は取引量が十分あり、特定のユーザー、農家の行動は相場に全く影響を与えないことも重要な前提である。

7月1日にある農家が売りに来た。受渡時期は11月1日。7月1日の先物相場は1,000である。工場としては、製品の売値がだいたい決まっており、十分なマージンを得るには1,000ではなく900で購入したい。相場は今後下がるかと判断しているが、工場の稼働のために必要な原料の確保を優先し、現物は1,000で手当てせざるを得ないと決断をする。そこで先物市場を活用して、マージン向上を図ることとした。以下の説明の後にある丸数字は、【表1】の取引内容のところを示している。

7月1日に原料（現物）を1,000で購入①。同時に同量の先物を1,050で売る②。

9月15日になって予想通り相場が下がった（現物が900、先物が950、現物と先物の差額は一定。）ので、7月に売ったのと同量の先物を買戻し、先物

の売買価格差を清算した③。11月になり、①の契約通り原料の受け渡しが行われ、原料代の1,000を支払った④。

【表1】

| 日付    | 工場持込価格 | 先物相場  | 取引内容                                   |
|-------|--------|-------|----------------------------------------|
| 7月1日  | 1,000  | 1,050 | ① 農家から原料現物を1,000で購入。<br>② 先物を1,050で売る。 |
| 9月15日 | 900    | 950   | ③ 先物を950で買い戻し清算する。ここで100の利益が出る。        |
| 11月1日 |        |       | ④ 原料を受取り、代金1,000支払う。                   |

上記①の通り、実際に購入した原料価格は1,000であったが、原料購入と同時に先物を1,050で売り、先物相場が950に下がった際に買い戻すことで、先物の売買価格差（利益）が100生じる。この利益を原料コスト減とみなせば、原料の実コストは900になる。

ここで重要なことは、一連の行為でメーカーが相場動向を正しく読んだからこそ希望するマージンを得られたことである。相場を読み違えて逆に上昇したら、マージンはむしろ悪化してしまった。

そこで考えるべきことがある。このメーカーはギャンブルをしたのだろうか？原料の買付担当者であれば、本来は固定費をカバーするだけ工場を稼働させるために、十分な量の原料を合理的なコストで買おうとする。量の確保のため積極的に原料を買おうとすれば、同業他社との競争があるため買値が上昇してしまう。量の確保とコストの抑制の両立は、相反するため難しい。その中でマージン確保のために先物市場を利用したと考えれば、ギャンブルだと断ずることには違和感がある。

このメーカーは、原料の量的確保、自らの相場観に基づくコストの両立を実現させた。さらに自らの利害に反し高値で売りたいという農家の希望を満たすことも実現させている。

先物市場の活用により、売り手の農家と買い手のメーカーの双方が自ら希望するタイミングで売買して、希望に沿った収入の確保とコストの確定ができた。双方にとりいい結果になったが、双方の相場観が正しかったからであ

る。誤っていたら双方が負けということになった可能性も否定できない。

(3) 製品販売価格が原料相場に反映されるケース

(2) の事例は製品価格が一定という前提であったのに対し、ここでは原料と製品の価格が連動する前提とし、【表2】でその事例を示している。

【表2】

| 日付    | 原料    |       | 製品    |       | 備考                                 |    |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|------------------------------------|----|-------|-------|
|       | 現物    | 先物    | 現物    | 先物    |                                    |    |       |       |
| 7月1日  | 1,000 | 1,050 | 1,500 | 1,550 | ① 原料現物を購入し製品の先物を売る。                |    |       |       |
| 9月15日 | 900   | 950   | 1,350 | 1,400 | ② 製品現物を販売する。同時に製品先物を買戻し、売買差額を生産する。 |    |       |       |
| 日付    | 現物    |       |       |       | 先物                                 |    |       |       |
|       | 原料    |       | 製品    |       | 原料                                 |    | 製品    |       |
|       | 買い    | 売り    | 買い    | 売り    | 買い                                 | 売り | 買い    | 売り    |
| 7月1日  | 1,000 |       |       |       |                                    |    |       | 1,550 |
| 9月15日 |       |       |       | 1,350 |                                    |    | 1,400 |       |

二重線の上は、主に農家とメーカーの行動に焦点を当てている。7月1日に農家が原料を売りに来た。メーカーは原料自体に割高感を感じたものの、製品と原料の価格差が500あり、これなら製造マージンが確保できるとの判断により原料の現物を購入。しかし、製品の買い手は、その価格を割高だと思い買わなかったので、メーカーは製品の先物を売った。その後の9月15日になって、相場が下がり製品の現物が売れたので、メーカーは製品の先物を買戻し、先物の売買価格差を清算した。

二重線の下は実際に取引されたものを現物／先物に分けて示した。現物を見ると、原料を1,000で購入して製品を1,350で売っているが、本来なら500の価格差が欲しいところ、350しかなく十分なマージンが得られていない。ところが、製品の先物を1,550で売り、1,400で買戻して150の利益を出しているため、最終的に本来欲しい500のマージンを得たことを示している。

現物の売買は相手のあることなので、自分の都合だけで売買できない。しかし、先物市場は、不特定多数の売買当事者が参加しており、常に一定の売買量がある。そのため、その時の相場であれば、自分が売買したい時に売買できる。その特長を活用して、自分の希望する時期にマージンを確定することが可能である。先物市場の取引当事者、取引量が少なく、特定の当事者の行動が相場を動かすとしたら、先物市場としての機能を果たさなくなるとも言える。

#### (4) 大豆搾油業者の事例

ここも「現物と先物の価格差は常に同一」という前提に基づいているが、議論を分かりやすくするために、先物価格と現物価格の差がゼロという前提にする。本質的には前述の(3)と同じである。

一般的に重量100の大豆から大豆油は18、大豆粕は78生産される。搾油メーカーにとっては、大豆を100購入し、同時に大豆油を18、大豆粕を78販売すれば、製品の売上と原料の費用の差額である搾油マージンが確定できる。しかし、大豆を売る農家、大豆油と大豆粕を買うユーザーは各々の思惑で行動するため、原料の購入と製品の販売は、バラバラになってしまうのが普通である。

仮に【表3】で示す通り、7月1日の相場が、大豆が500、大豆油が1,400、大豆粕が450だとする。(実際のシカゴ市場は、大豆がブッシェル、大豆油はポンド、大豆粕はショートトン当たりの価格、すなわち基準となる数量が異なるが、この事例は問題を単純化するために、同じ単位になるように調整している。)

大豆の量を100とすると原料のコストは50,000、大豆油の生産量は18なので、売り上げは25,200 ( $=1,400 \times 18$ )、大豆粕の生産量は78、売上は35,100 ( $=450 \times 78$ )となる。売上の合計は60,300なので搾油マージンは10,300、ここから搾油コストを引いたものが粗利益となるがここでは搾油コストについては無視する。

7月1日に農家が大豆を売りに来た(受け渡しは11月)ので、このメーカ

ーは大豆を100購入した①。ただし、この日、製品（大豆油、大豆粕とも）は売れなかった。このメーカーは10,300のマージンに満足しているため、このマージンを確定させたい。そこで、現物の代わりに先物市場で、大豆油18、大豆粕78の先物を売った②。

9月15日になり、大豆油18と大豆粕78が売れた③。同時に同量の先物を買戻す④ことで、全てが終了する。油とミールの販売が別々になった場合、各々現物を売った日に先物を買戻しても同じことになる。

【表 3】

| 日付    | 大豆  | 大豆油   | 大豆粕 | 取引内容                                 |
|-------|-----|-------|-----|--------------------------------------|
| 7月1日  | 500 | 1,400 | 450 | ① 原料の現物を100買う。買値は左の通り（以下も価格については同様）。 |
|       |     |       |     | ② 大豆油の先物を18、大豆粕の先物を78売る。             |
| 9月15日 | 600 | 1,500 | 500 | ③ 大豆油18、大豆ミール78の現物を売る。               |
|       |     |       |     | ④ 大豆油、大豆ミールの先物を買戻し清算。                |

【表 4】は【表 3】のように相場が変動した際の、7月1日と9月16日のマージンの変化を記したものである。

【表 4】

| 日付    | 売上                     | 原料費    | マージン   | 備考                                                       |
|-------|------------------------|--------|--------|----------------------------------------------------------|
| 7月1日  | 油 25,200<br>ミール 35,100 | 50,000 | 10,300 | 原料：500×100，<br>油：1,400×18，ミール：450×78，<br>マージン＝（油＋ミール－原料） |
| 9月15日 | 油 27,000<br>ミール 39,000 | 60,000 | 6,000  | 製品相場が上昇したがそれ以上に原料相場も上昇したため、マージンが悪化。                      |

\* この表でのマージンは、原料の購入と製品の販売を同じ日に行った前提で計算したもの。

7月1日に大豆の現物100を価格500で買い（原料費が50,000に固定される）、先物で18の大豆油を1,400、78の大豆粕を450で売る。

9月15日の現物の大豆油、大豆粕の単価と販売量から製品の売上は66,000、



原料費用が7月1日に固定された50,000なので現物価格だけから求められるマージンは16,000となる。7月1日に固定した搾油マージンは【表4】の7月1日のところの通り10,300に過ぎない。

9月15日には、大豆油の先物を買戻して1,800の清算損（＝▲100×18単位）、大豆粕の先物を買戻して3,900の清算損（＝▲50×78単位）が出るため、搾油マージンと先物の清算損の合計は10,300（＝16,000－1,800－3,900）となる。7月1日に確定させたマージンが実現されたことを物語る。

これが先物取引を活用したヘッジの仕組みである。一般的に原料と製品の相場は連動する。現物と先物を反対の取引をすることで、相場変動によるリスクを回避してマージンを固定することができる。しかし、相場変動によりマージンは変化するので、自分の判断が間違えば、マージンが減少することも十分にあり得る。ここで言えることは、実質の売値、買値、マージンを自分の決めたい時に決められるということだけある。それでも、相手がある現物取引では、自分の好きなタイミングで売買ができないことを考えると、この仕組みの意義が理解できると思う。現物取引だけに頼るとマージンが「あなた任せ」になるところ、先物を活用したヘッジは「自己責任」になる。

いずれにせよ、ただ売るだけ、ただ買うだけでは、相場の変動に伴い損益が大きく変動する。その変動をなくすことがヘッジの本質的な意味である。

### 3. 先物市場を活用してもできないこと

#### (1) 先物市場誕生の背景

穀物は年に1回の収穫が普通である。収穫直後は農家が在庫を抱え、置き場所がない、現金収入が欲しい等の理由で、売りが増えた。そのため相場が大きく下落した。これはハーベストプレッシャー（収穫時期の売りによる相場の下落）と言われる現象である。一方、翌年の収穫直前は、在庫が減少し、現物のユーザーの買いに対して供給が追いつかず、相場が急騰するというのが一般的な傾向となった。相場が季節要因により大きく動き、社会問

題になることも珍しくなかった。

そこで先物取引という概念、先物市場が生まれたのである。農家は相場が急落する前にある程度は売っておきたい、逆にユーザーは相場が高騰する前にある程度は必要な量を確保しておきたいという双方のニーズに応えるのが目的である。

天候が不順（好調）なので作柄が悪く（よく）なって相場が上がり（下がり）そうである、穀物加工場が新規稼働する（閉鎖される）ため需要が増えて（減って）相場が上がり（下がり）そうであるという予想に基づき、まず買って（売って）おくことができる。期日が来たら、買い手（売り手）は現物を受け取る（渡す）。その時になって、現物の売買ができないというリスクがなくなるこの仕組みは、画期的であったと言える。

ここに投機家が参入する。投機家の目的は、現物の売買ではなく、先物取引で清算し、売買益を得ることである。先物取引では、現物を動かさず、清算する割合が増えた。先物市場に現物の受け渡し機能がなくなったわけではない。現物を売買する人にとっては、取引所経由ではなく売り手と買い手の間で直接現物をデリバリーするが、価格を先物市場に連動というパターンの方が手間暇、物流コストの観点から合理的である。投機資金が市場に流入することで、特定の人の売買により相場が左右されづらくなるという好影響ももたらされた。今では過剰な投機マネーが相場変動を極端に大きくするという問題があるが、当時は相場の傾向を先取りすることで、相場の動きがなだらかになり、急激な高騰や下落がなくなった。投機マネーの流入は先物取引にとっては重要なことだったのである。

## (2) 先物市場でできないこと

本稿の最初で述べた点の繰り返しになるが、先物市場を活用して昨今の穀物相場の高騰から逃れることができたのかと聞かれても、残念ながらできなかったと回答せざるを得ない。

ヘッジとは、相場変動に左右されないようにマージンを確定させることで

ある。この表現は非常に都合よく聞こえる。実際にこれまでの説明もそうなるように意識してきた。しかし、マージンを確定することと、そのマージンの水準が十分であることは別である。ヘッジによりマージンの絶対額は保証されるわけではない。ヘッジを機にマージンが確定されるだけであり、その後、改善も改悪もしない。

ヘッジの事例は色々あり、ここで紹介したのはごく代表的なものに過ぎないが、1つの共通点がある。ヘッジをできるのは、流通、加工などの中間業者であり、穀物の生産者、穀物の現物や加工品を消費する消費者はヘッジができない。飼料穀物の場合、穀物の生産農家、肉や卵の消費者は相場変動のリスクを受ける。ただ、日本に関して言えば、飼料メーカー、畜産農家が原料穀物の相場変動を吸収し、消費者価格に反映されないという状態が長く続いた。さすがに昨今の相場の高騰は、消費者価格に反映せざるを得ないところまで来ているが、十分には反映されていないのが実態である。

相場が一方的に上昇した場合、買い手がその相場上昇から逃れるためには、早く買うしかない。しかし、早く買うことは相場が上がるという前提により実現するものであり、逆に相場が下がったら損をするという意味では、ハイリスクハイリターンであることから、文頭で「ギャンブル」と称した。さらに連戦連勝は不可能だとも言える。もしそういうノウハウを持っている人がいたら、その人はひそかにトレードに勤しみ、多額の利益を得ていることであろう。自分ではリスクを負わず、「絶対に儲かります」と言う人がいたら、それは悪質な勧誘である。このことは穀物相場でも同じである。

ロシアのウクライナ侵攻により穀物相場が高騰したと言われるが、穀物市場に参加しているプレーヤーで、ロシアの行為を事前に知っていた人はおそらくいない。「ロシアの…」という穀物相場の高騰の説明は、後付けの説明に過ぎないということを理解しておく必要がある。後付けの説明が繰り返されるうちに、いつの間にか事前に分かっていたような錯覚に陥る。そして穀物相場がこんなに高騰したことが、誰でも事前に知り得たと誤解されるように思う。それが「先物市場を上手く活用すれば相場高騰の被害を防げたはずで

ある」という話に育ったものと私は考える。

## 4. 問題の提起

あえて結論を言わず、問題を提起したい。私がカナダに駐在した際、お正月の1月1日よりバスの運賃が上昇した。インフレ率に連動するルールで機械的に実施され、普通に受け入れられていたが、モノの値段が上がらない日本にいた私には衝撃であった。

日本でも一般的な電気料金やガス料金は、コストにある程度連動するようになっているが、企業がコスト増を吸収している面もある。多くのものは、企業努力で物の値段が上がらないまま何十年も経っており、このところの円安、物価高に耐えられず値上げに踏み切ったところが少なくない。それを「大変なことが起こった」というトーンでマスコミが報道し、国民に否定的な印象を与えている。

企業努力が重要なことは言うまでもない。原料、資材、運賃、エネルギーなどのコストが上昇している中で、製品価格を値上げせずとも十分な利益を得ることができるような努力は称賛されるべきである。しかし、限度を超えて企業がコストアップを吸収するという経済構造が本当に健全と言えるのか。この点はもっと議論されてもいい。

本稿の目的はヘッジの説明であり、このテーマから飛躍するが、最後に1つの事例を提示したい。「穀物の国際相場が高騰した。日本は飼料穀物を輸入に頼っている。相場高騰の被害を食い止めるために、自給率を高めるべきである。」という議論がある。それは1つの考え方であり否定はしない。

自給率を高めるために、国内の飼料米のさらなる活用が考えられる。その飼料米の生産コストはいくらで、今の飼料穀物の国際相場と比べてどうなのかを分かって自給率向上を主張しているのかを問いたい。本誌の読者なら大半がご存知の通り、高騰してもまだ輸入穀物の方が圧倒的に割安である。

では飼料米はNGなのか。耕作放棄地が飼料米の生産地として有効活用されることで、国土の保全（水田にはダム機能がある）に役立つばかりか、里

山の生態系維持にもつながる。飼料米の生産について国内の飼料穀物の需給バランス、生産コストだけでは判断できない話だということが分かる。いくつかの省庁が関連するだろうか？

自給率、コスト、国土の保全、生態系。色々な観点があり、1つのことを多面的な視点で物事を判断していくことが重要であるということを申し上げたい。

その意味では「先物市場の活用」を問題提起されたことは、決して悪いことではない。調達コストは食料安全保障とも密接に関係することであり、1つの可能性を追求することを頭ごなしに否定すべきではないが、同時に無理なものを深追いすべきでもない。仮に上手くやる仕組みがあれば、この道で何十年も苦労している人が気づいて実施しているはずである。その事例がない現実を直視し、事態を改善していきたいという思いを込めて、本稿を閉じることとする。



## ポストバイオティクス—動物の腸内細菌叢の最適化と Diamond V™ Original XPC Ultraのご紹介

Written by: Stacey Jones/Diamond V

Supervised by Dr. Yuk Kwaun Kwan/Diamond V

Translated by: カーギルジャパン合同会社

Diamond Vのポストバイオティクスは、豚、乳牛、家禽、牛肉、水産養殖、コンパニオンアニマル（伴侶動物、ペットを指します）産業における現実の課題に対処しています。当社の飼料添加物は、動物の生物学と連携し、栄養、免疫、健康、パフォーマンスをサポートする事を目的としています。80年近く、世界中の動物栄養士と獣医師のグループから、動物の健康、また健康をサポートするポストバイオティクスの研究開発におけるDiamond Vのリーダーシップが認められてきました。Diamond Vは2018年にカーギルのメンバーになりました。

動物の健康を最適化したい場合、腸に注目してみてください。

腸のマイクロバイオーーム（腸内細菌叢）は消化を促進し、動物や人間が食物摂取を最大限に活用可能にする役割を担う事が長い間知られています。研究では、胃腸管内の微生物が、宿主の免疫システムを強化し感染と戦うなど、多くの健康上の利点をもたらすことも示されています。

成長を促進し、免疫システムをサポートするために、動物に複数の添加物やサプリメントを与えている場合があります。単一の化合物を与え、単一の効果を得る



Diamond V

という戦略は、動物の給餌自体に多くの大切な項目、改善項目がある為、制限されてしまいます。そのため、そのスペースと栄養価の高い食品／飼料とのバランスを取り、添加物を慎重に選択して、消化と免疫サポートを最大化することが重要です。

この給餌の課題に対処する1つの方法は、選択する添加物に柔軟性を持たせ、複数の利点を提供できる製品を動物飼料に含めることです。プレバイオティクスやプロバイオティクスなどの製品は、腸内の善玉菌の増殖をサポートするために動物飼料に長い間使用されてきました。ポストバイオティクスは、決して新しい言葉ではないのですが、次世代の「バイオティクス」と見なされています。

ヒトおよび動物におけるポストバイオティクス研究の上位には、次のものが含まれます。

- 活力，健康，全体的な幸福
- 抗酸化レベル
- 血糖値
- 酸化ストレス
- 円形脱毛症，潰瘍性大腸炎，内臓過敏症
- 風邪やインフルエンザの季節の鼻づまり，春のアレルギー
- ワクチン
- 健康的な消化
- 人や動物のストレスレベル
- 炎症反応
- コレステロール値
- 栄養吸収

種を超えてのポストバイオティクスの使用は、免疫系の反応を調節し、成長と健康の面でのパフォーマンスを改善することを目的とし、病気の制御戦略として提案されています。他のポストバイオティクス研究課題は次のとお

りです。

- マイクロバイオームの有益な調整
- 上皮機能の強化
- 全身代謝の調節
- 神経系を介したシグナル伝達

## ポストバイオティクス — 新しいタイプの添加物

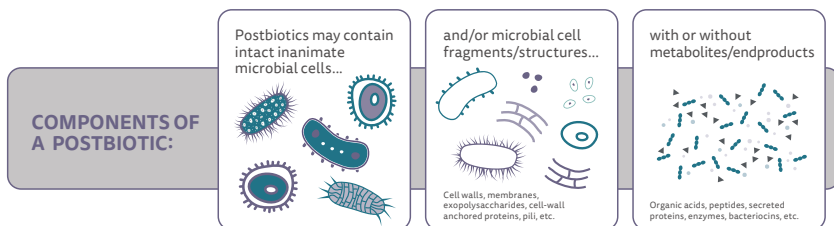
2021年に国際プロバイオティクスおよびプレバイオティクス科学協会 (ISAPP) は、ポストバイオティクスに関するコンセンサス ステートメント (合意声明) を発表しました。

[International Scientific Association of Probiotics and Prebiotics \(ISAPP\)](#) published their [consensus statement for postbiotics](#)

発酵等の作成技術では、プレバイオティクスは微生物が使用する燃料のような存在であり、プロバイオティクスはバクテリア／酵母などの生きた微生物であり、燃料を発酵させます。ポストバイオティクスは、代謝産物を含む微生物発酵の最終産物です。

# Postbiotics

A postbiotic is a preparation of inanimate microorganisms and/or their components that confers a health benefit on the host.



ポストバイオティクスは、同様のカテゴリーの製品とどのように比較されますか？

代謝産物は細胞の代謝中に生成される、複数の機能を持つ健康増進化合物です。また、最終的には代謝とマイクロバイオームの構成に影響を与えます。代謝物には、追加の利点があり、動物が恒常性やバランスを回復するためにエネルギーを増やす必要なく、微生物に影響を与えることができるシグナル伝達分子が含まれています。

これらの生物学的化合物のいずれかを与えている場合、最終的な目標は有益な代謝物を提供することです。プロバイオティクスおよびプレバイオティクス製品の有効性は、動物の腸内で絶えず変化する状態に左右されます。プレバイオティクスは、最適な結果を得るために適切な微生物の存在に遭遇する必要があります。プロバイオティクスが生き残るために、適切な生存条件が必要です。動物の腸内では、化学的条件、微生物競合、およびその他の要因が絶えず変化しており、プレバイオティクスとプロバイオティクスが腸内で必要なことを行うのに最適な状態であることを確認することは不可能です。生成される最終代謝物を制御することも不可能です。

一方、ポストバイオティクスは、製造環境での発酵プロセスを通じて作成されます。(製造)環境が高度に制御されるほど、ポストバイオティクス製品の信頼性と一貫性が向上します。これは、動物の腸内ですべて機能すること

|                             | PREBIOTICS                                                                                                  | PROBIOTICS                                                                                                                | POSTBIOTICS                                                                                               | SYNBIOTICS                                                                                                                                                    | FERMENTED FOODS                                                                                        |
|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| CONSENSUS DEFINITION        | A substrate that is selectively utilized by host microorganisms conferring a health benefit on the host     | <u>Live microorganisms</u> that, when administered in <u>adequate amounts</u> , confer a health benefit on the host       | Preparation of inanimate microorganisms and/or their components that confers a health benefit on the host | A mixture comprising <u>live microorganisms</u> and <u>substrate(s)</u> selectively utilized by host microorganisms that confers a health benefit on the host | Foods made through desired microbial growth and enzymatic conversions of food components               |
| REFERENCE                   | <a href="#">Gibson et al., 2017</a>                                                                         | <a href="#">Hill et al., 2014</a>                                                                                         | <a href="#">Salminen et al., 2021</a>                                                                     | <a href="#">Swanson et al., 2020</a>                                                                                                                          | <a href="#">Marco et al., 2020</a>                                                                     |
| SIMPLE WAY TO CONCEPTUALIZE | Food for microbes within the host                                                                           | Live microbes that are good for your health                                                                               | No-viable microbes and/or cell components <u>with or without metabolites</u>                              | Mixture of probiotic + prebiotic                                                                                                                              | Food for the host made through the growth of live microbes                                             |
| LIVE MICROBES PRESENT?      | No                                                                                                          | Yes – and required                                                                                                        | No                                                                                                        | Yes – and required                                                                                                                                            | Sometimes, but not required                                                                            |
| KEY FEATURES OF DEFINITION  | <u>Selective</u> utilization is key part of this definition. Prebiotics cannot be utilized by all microbes. | <u>Identity must be confirmed</u> through genome sequencing. Variability must be preserved through the end of shelf life. | It's a <u>preparation</u> and implies that specific formulation has a role in beneficial effects.         | Health benefit must be more than just the probiotic alone and the prebiotic alone.                                                                            | <u>The final product is food</u> . Fermented foods have nutrients such as energy, protein, and others. |



が期待できるだけでなく、有益な代謝物を動物に直接与えることが可能だということを意味します。

ポストバイオティクスには多数の代謝産物が含まれているため、ポストバイオティクスには複数の有益な効果があることが研究でわかっています。

### 消化をサポート

ポストバイオティクスは、すべての動物種で消化率を高めることが示されています。

反芻動物と単胃動物の研究ではポストバイオティクスを与えられた動物は有益な腸内細菌レベルが高いことが解りました。さまざまな繊維レベルや多種類の栄養を含むさまざまな給餌をすると、これらのバクテリアは飼料の消化率を高め、より高い消化率の指標の1つである揮発性脂肪酸をより多く生成しました。

水産養殖システムに関する研究では、ポストバイオティクスを与えられたエビと魚の飼料変換率が増加することが解りました。これらの結果は植物性成分の消化率に関するさらなる調査を促しました。ポストバイオティクスをティラピアに与え、水産養殖で通常使用される8つの植物成分の消化率を評価した結果、粗タンパク質の消化率、および8つの生の植物性成分すべての





全体的なエネルギーと乾燥物質の大幅な増加を示しました。

これらのデータは、生産者が飼料を再調整する必要がある場合、ポストバイオティクスの給餌が更に高いレベルでの消化サポートを提供するのに役立つ可能性があることを示唆しています。

### ストレス下での保護

ストレスはマイクロバイオームの変化を引き起こす可能性があります。ポストバイオティクスはマイクロバイオームの多様性をサポートし、ポストバイオティクスを与えられた動物はストレス発生時においてもマイクロバイオームがより安定していることを示す研究が増えています。安定したマイクロバイオームにより、ポストバイオティクスを与えられた動物はパフォーマンスの向上も達成できると考えます。

### 1つの製品で複数のメリット

動物はその環境において、pH、温度、または土壌の質の変化など、多くの変化を経験します。これらの変化は動物にストレスを与え、腸の健康を乱し、生存率、成長、飼料変換などの重要なパフォーマンス指標に悪影響を及ぼします。

研究にてポストバイオティクスは、変化する環境においても、動物に広範なサポートを提供できることが示され、ポストバイオティクスを与えられた動物は、ストレスを受けた際に消化率が改善、腸内の微生物叢が安定、一般的な課題からの保護とともに、与えられた餌からより多くの栄養を摂取できるようになることが解っています。さらに、ポストバイオティクスが動物の細菌叢の環境整備をサポートする役割も果たしていることを示唆しています。

ポストバイオティクスは単一の化合物ではなく、多数の代謝産物の組み合わせであるため、広範な効果を得ることが可能です。ポストバイオティクスの複雑な性質は、その製品の製造を担う側として綿密に検討する必要があることを意味し、ポストバイオティクス製品の製造をより厳しく管理すればするほど、製品の一貫性が期待できます。

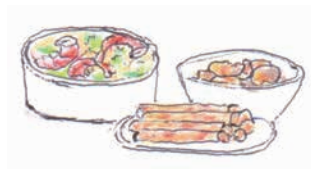
多くの有益な効果により、ポストバイオティクスは畜産業を大きく支援する可能性を秘めていると考えます。原料を巡る様々な事情から飼料配合を再調整する場合、または飼料配合の割合や改善項目を考慮して添加物を減らす必要がある場合、ポストバイオティクスは柔軟性を得る機会を提供する可能性があります。

この新しいポストバイオティクスという製品カテゴリに関する研究量増加と有益な効果の証拠や評価により、ポストバイオティクスは動物の免疫力と消化器の健康をサポートしようとする畜産農家の主力になる機会が含まれると考えております。Diamond V™のOriginal XPC Ultraのようなポストバイオティック飼料添加物を導入すると、動物の健康、パフォーマンス、および収穫前の食品の安全性を最適化するのに役立ちます。Diamond V® ポストバイオティクスは、豚、乳製品、家禽、牛肉、水産養殖、動物産業に関連する様々な課題や現実に対処できると思います。当社の製品は、動物の生物学と連携して、栄養、免疫、健康、パフォーマンスをサポートします。80年近くにわたり、世界中の動物栄養士と獣医師から、動物の健康と健康に役立つポストバイオティクスの研究開発におけるDiamond Vのリーダーシップが認知されてきました。詳細については[www.DiamondV.com](http://www.DiamondV.com)をご覧ください。

## フィリピンの食生活

双日(株)食料事業部小麦事業課

浦上 眞由香



双日株式会社の浦上眞由香と申します。22年4月から1年間、研修生としてフィリピン、マニラに着任しております。

最近のフィリピンはというと、10月にマスクの着用義務化が解除されるな



マニラの中心都市BGC

どコロナの規制も大幅に緩和され、出勤時間に体験する交通渋滞が日に日に深刻化していることから人通りが増えてきていることが実感できます。

特に人口の約9割がキリスト教徒のフィリピンでは、もうすぐ控えるクリスマスが1年の最大イベントで、9月から既にスタートしていたクリスマスモードが本格化し、街中がこれでもかとばかりにライトアップしてにぎ

やかになっています。



さて、今回は「各地の食生活」がテーマということで、まだ滞在して6カ月のフィリピン初心者ではありますが、フィリピンでの食生活について振り返ってみました。そもそも皆様はフィリピンの食と聞いて、どのようなイメージがあるでしょうか。赴任以前、私は特にイメージが湧かず心配していたのが正直なところです。しかし、いざこちらに来てみると、街中にはイタリアンやタイ料理、韓国料理、和食など何でもそろっているし、約300年の植民地時代の歴史が影響しておしゃれで美味しいスペイン料理も豊富でした。

フィリピン料理もまた予想以上に日本人の口に合うものが多いことに驚きました。フィリピン料理は中国やかつての宗主国スペインの影響も大きく受けているとのこと。また白米を多く食べるフィリピン人の料理はごはんに合うような甘くて濃い味付けの料理が多い印象を受けます。フィリピンでは、朝昼夜ごはんの他に朝昼の間、昼夜の間にメリエンダという間食の時間があり、1日に4-5食食べる人もいます。メリエンダ文化はかつてのスペインから影響を受けたらしいのですが、この「間食」の時間にスナックやスイーツだけでなく、ピザや麺などかなりしっかりと食べているので、初めて見た時はよくそんなに食べきれものだと驚愕しましたが、今ではそんな習慣につられて日に日に胃袋が大きくなっている気がします。そんなユニークな食生活があるフィリピンから、私にとって印象深い料理を紹介したいと思います。

### ◆ ブラロー (Bulalo)

牛肉と牛骨を煮込んでダシをとったスープ。このブラローは、濃い味付けが多いフィリピン料理にはめずらしく、ほっとする味で日本人に人気があります。基本的に食事の時は白米を食べるフィリピン人はこのスープも白米と一緒に食べるようです。首都マニラがあるルソン島の南に位置する、タール湖とタール火山が有名な避暑地、タガイタイは牛肉の名産地で、このブラロー



タガタイで食べたブラロー

ーをマーケットやお店など至る所で食べることが出来ます。フィリピン料理にはこのブラロー以外にも少し酸っぱいシニガンやポトフのようなニラガといったスープ系の料理があり、私が会社の食堂で食べる定番メニューとなっています。

### ◆ シシグ (Sisig)

これも日本人にとって定番のフィリピン料理で、細かく刻んだ豚肉や玉ねぎをにんにく、醤油、酢、唐辛子等で炒めた鉄板料理です。豚肉ではなくツナやタコのアレンジバージョンもあります。下の写真にも写っていますが、カラマンシーという柑橘を絞って食べます。野菜料理が少ないフィリピンでは、このカラマンシーが大事なビタミン源です。私はフィリピンに来てほぼ初めてゴルフを始めたのですが、あっちこちに飛ばして走り回った後のお昼に、サンミゲルライトという軽くてさっぱりしたフィリピンのビールと一緒に食





ゴルフ後のシシグ



サンミゲルライト

べるこのシシグが最高に美味しいです。

### ◆ パンシット (Pancit)

ビーフタイプのPancit Bihonと少し太い麺の焼きそばのようなPancit Kantonと2種類見かけます。日常的にも食べますが、誕生日では定番の料理で長寿を願ってパンシット等の麺類を食べるそうです。フィリピンでは、誕生日の人が周りの人にごはんを振る舞うのが一般的で、先日誕生日を迎えた際は会社の皆でこのパンシットやピザをほおばりました。



誕生日に食べたパンシット

### ◆ フライドチキン

フライドチキンはその浸透度と人気から、“フィリピン料理”なのだと思います。フライドチキンもまた、写





Jolibeeフライドチキン

真のように白米と一緒に食べます。日本みたいに手で持って食べるのではなく、皆スプーンとフォークを使って器用に食べきるのにも驚きました。写真はフィリピンで一番ポピュラーなファーストフード店Jolibeeのフライドチキンです。フライドチキンにはグレービーソースをかけて食べます。Jolibeeは国内で絶大な人気を誇っており、マクドナルドの約2倍の店舗数を展開しているようで、確かにどこかのモールに行ってもJolibeeの独特なキャラクターを見かけます。Jolibeeがスタンダードのフィリピンでは、マクドナルドにもフライドチキンとごはんのセットが売っています。現地スタッフに、一番好きなご飯は何？と聞いてもJolibee！と返ってくるほどフィリピン人の生活に深く浸透したお店です。

以上、私が6カ月フィリピンで過ごしてきた中で、印象深い料理を紹介させていただきました。振り返って文章を書いてみると、各料理と関連した様々な過去の出来事が思い出されて改めて「食」が日々の生活に深く関わっていることを実感しました。他にもまだまだ色々なフィリピン料理があるので、皆様もフィリピンにいらした際はぜひ思い出とともにフィリピン料理を味わってみてはいかがでしょうか。

伊藤忠商事株式会社

## わが社の受渡担当者3名の横顔

伊藤忠商事(株)飼料・穀物部 飼料課

仲井 研也



伊藤忠商事の仲井研也と申します。初めての方も多くいらっしゃると思いますので、簡単に自己紹介をさせていただければと思います。

2020年入社で飼料課に配属されました。昨年度は主原料マイロの受渡しを担当しておりましたが、今年度から副原料部隊にて修業させていただいております。入社して約3年が経ちますが、就職と共にコロナ渦に巻き込まれてしまい、あまり皆様と直接顔を合わせることができず、少し寂しいと感じる毎日であります。

しかしながら長きにわたるコロナ生活も、10月からインバウンドの規制がなくなり、「全国旅行支援」が始まるなど、平常化の兆しが見えはじめております。いち早く日常が戻り、皆様と直接お会いできることを楽しみにしております。依然としてストレスや不安を感じる生活が続くかと存じますが、くれぐれもご自愛ください。

さて、今回の弊社担当者の紹介ですが、現在受渡しに従事している若手3名を選出させていただきます。

## ◆佐野 航太(さの こうた)

## &lt;プロフィール&gt;

2016年4月入社 ファッションアパレル第二課

2017年10月 食糧部門戦略室

2019年4月 飼料課(当時:飼料原料課)

2020年4月 日本ニュートリション株式会社出向

2022年 6 月 飼料課

<担当からコメント>

伊藤忠商事の佐野と申します。今年度の6月に飼料課に帰任し、現在主原料チームでマイロの受渡し等の業務を担当しております。仕事で関わらせていただいている皆様に助けられながら、怒涛の毎日を送っております。帰任してから半月が経とうとしておりますが、(業界経験が少ないこともあり)いまだにトレードビジネスの奥深さに圧倒されているのは、ここだけの秘密とさせていただきます。

当方にはこれといった趣味はないのですが、学生時代にラグビーをしておりましたので、週末には現地やTVにて試合観戦しております。ラグビーブームの火付け役となった2015年のW杯の南アフリカ戦はまだ記憶に新しいのですが、2019年には日本開催W杯ベスト8と大躍進を経て、来る2023年W杯が待ち遠しく思います。「ラグビーはルールが多すぎてわからないよ。」とお思いの方、佐野による実況解説つき試合観戦はいかがでしょう。コロナが明けましたら是非ご一緒させていただきたく存じます。



## ◆小林 弘和（こばやし かずひろ）

### <プロフィール>

2018年4月入社 食糧戦略室

2020年4月 日本ニュートリション株式会社出向

2022年1月～現在 飼料課

### <担当からコメント>

こんにちは、小林弘和と申します。  
現在は大豆粕の受渡し／糟糠類の商  
売・受渡しと、主に副原料ラインに  
て仕事をしております。知識や経験  
が浅く、ご迷惑をお掛けするかもし  
れませんが、生温かく見守っていただ  
けますと幸いです。

さて、他メンバーが部活について  
語っておりますが、私自身は中学・  
高校が帰宅部で、大学では弓道部に所属しておりました。いずれもプレー人  
口の少ない競技で、語り合える方は少ないかと存じますが、ご経験ある方は  
是非お話ししましょう！そんな私の最近のブームは「銀ブラ」です。自分自身  
は特段お洒落な人間はございませんが、週末はハイソな気を吸収するために  
銀座をぶらぶらして、平日を戦い抜く活力としております。

皆様に少しでも有益な情報になればと、個人的おすすめスポットを紹介し  
ます。①銀座シックスの蔦屋書店（意識高い系）②ドーバーストリートマー  
ケット銀座（ハイカラ）③日比谷公園（気が良い）。上京したての2018年、ミ  
ッドタウン日比谷の洗練された空気に圧倒されて2秒で帰宅していたことを  
思い出すと、我ながら変な方向に成長したなどは感じますが、あの頃のフレ  
ッシュな気持ちは忘れずに日々の業務に邁進します。今後ともよろしくお願  
いいたします。



## ◆木寺 佑介（きでら ゆうすけ）

### <プロフィール>

2019年4月入社 金属Co. 石炭・原子燃料部 発電燃料課

2021年4月 食料Co. 飼料穀物部 飼料課

### <担当からコメント>

伊藤忠商事の木寺と申します。2021年度から飼料原料輸入に関わるお仕事に携わっており、現在は、マイロ、大豆、大豆粕、菜種粕、シカゴ定期関連と幅広く商品を担当しております。私はこの業界に携わってまだ1年半ではございますが、日々仕事をする中で飼料関連ビジネスの奥深さを知り、どんどん好きになっています。今後もっと業界の奥深くまで理解している人間になり、仕事をご一緒している皆様のお役に立てればと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

さて、少しだけ私自身の話をさせてください。私は学生時代ボート部に所属していたのですが、最近はすっかりカヌーに浮気しております。旅先でカヌーをレンタルし、美しい湖や川を漕ぐのですが、水上からしか見ることのできない風景や地形が見えて非常に面白いです。特に昨年の夏に友人と旅した十和田湖でのカヌーは格別でしたので、是非お勧めいたします。コロナ禍でアウトドアが再注目されておりますが、私もその流行に乗っている人間の一人です。やはり日本の自然は素晴らしいですね！



- ① ロシアがウクライナへ侵攻 プーチンに振り回される穀物相場
- ② 米国コーンは順調な収穫も最低水準の在庫率, シカゴコーンは2012年以来の8ドル超え
- ③ 米国利上げ, 32年ぶり円安150円超えも  
～海外出張解禁も予算大幅オーバー!? 日本円に換算するとお土産買えない…～
- ④ シカゴ高・円安で大豆粕も10万円へ! 最後は数年ぶりのインド産バルク輸入にインドー(引導)を渡された?
- ⑤ 物流大混乱  
～気候変動の影響か, ミシシッピ川は歴史的な低水位でバージフレート暴騰～  
～新型コロナの影響からのコンテナ不足。ハイキューブは空を飛ぶ!?～
- ⑥ 粗飼料全原料爆騰  
～牧草も値上げ? 「モウ～」いやだ!～
- ⑦ withコロナへ一歩, コロナ規制緩和で経済社会活動は正常化へ?
- ⑧ 大豊作のブラジル, 中国のブラジル産とうもろこしをついに解禁, 来年以降の動向はいかに!?
- ⑨ Phyto Cert提出が厳格化 ―検疫証明書の円滑な発行目指してみんなでファイト!
- ⑩ 全国で鳥インフルエンザが過去上回るペースで確認, 鳥インフル, 飼料高, 卵価低迷の鳥プルパンチ

### <番外編>

- ・ カタールW杯開催! 大会史上最多の大番狂わせ続出, 日本はドイツ・スペイン撃破の快挙! 三笥の1ミリ!!!  
～流行語大賞「村神様」には一歩間に合わず～
- ・ 安倍元首相, 銃撃される 宗教と政治の関係が問題に
- ・ エリザベス女王死去 歴代最長70年在位に幕





## 「新春賀詞交礼会」3年ぶりに開催

新年恒例の飼料輸出入協議会主催「新春賀詞交礼会」が、1月5日(木)正午から1時30分まで東京・千代田区丸の内3丁目の東京會館ローズの間で3年ぶりに開催されました。今回は、新型コロナウイルス感染防止の観点から飲食の提供はなく、ペットボトルの水のみ配布するというかたちの交礼会でした。コロナ禍の影響で一昨年、昨年と2年続けて中止を余儀なくされましたが、今回久しぶりの開催とあって、会場には受付開始早々から飼料畜産業界はじめ、官庁、外国公館、当協議会会員商社の方々など700名余がご来場になり、ご歓談頂きました。今回の開催につきご理解頂いたことに感謝し、ご参加下さった方々はもとより、開催にご協力頂いた全ての皆様に、深く御礼申し上げます。



◆新春賀詞交礼会スナップ



◆新春賀詞交礼会スナップ





◆新春賀詞交礼会スナップ



◆新春賀詞交礼会スナップ



## 第54回 (2022年) Feed Trade アンケート当選者発表

### 今回もホールインワン賞は該当者なし

#### 《設問と正解》

第1問 2022年7月1日(金)の米国産トウモロコシのシカゴ定期

12月限の引け値はいくらでしょうか。

正解 607.50セント

第2問 2022年10月3日(月)の米国産トウモロコシシカゴ定期

12月限の引け値はいくらでしょうか。

正解 680.75セント

第3問 2022年10月度のUSDA需給報告における2022/23クロップ

米国産トウモロコシの生産高はいくらでしょうか。

正解 13,895百万ブッシェル

第4問 2022年12月1日(木)現在の対米ドル換算率レート

(三菱UFJ銀行TTS) はいくらでしょうか。

正解 138.09銭

各賞は、以下の皆様に決まりました（敬称略）。

第1問 ホールインワン賞 なし

|       |      |       |        |
|-------|------|-------|--------|
| ニアピン賞 | 田口 鑑 | 兼松(株) | 609.00 |
|-------|------|-------|--------|

|     |       |       |        |
|-----|-------|-------|--------|
| 残念賞 | 坂井 勇人 | 兼松(株) | 605.00 |
|-----|-------|-------|--------|

|   |       |         |        |
|---|-------|---------|--------|
| 〃 | 鈴木有希津 | 全酪連福岡支所 | 605.00 |
|---|-------|---------|--------|

|   |       |         |        |
|---|-------|---------|--------|
| 〃 | 小川 準平 | 三菱商事(株) | 610.00 |
|---|-------|---------|--------|

第2問 ホールインワン賞 なし

|       |       |       |        |
|-------|-------|-------|--------|
| ニアピン賞 | 高橋 幸治 | 双日(株) | 685.00 |
|-------|-------|-------|--------|

|     |       |       |        |
|-----|-------|-------|--------|
| 残念賞 | 伊藤 響子 | 双日(株) | 700.00 |
|-----|-------|-------|--------|

|  |       |         |        |
|--|-------|---------|--------|
|  | 満山 一輝 | 豊田通商(株) | 700.00 |
|--|-------|---------|--------|

第3問 ホールインワン賞 なし

|       |       |         |        |
|-------|-------|---------|--------|
| ニアピン賞 | 村林 雄二 | (有)飼料通信 | 13,870 |
|-------|-------|---------|--------|

|     |       |       |        |
|-----|-------|-------|--------|
| 残念賞 | 増田 雄基 | 兼松(株) | 13,972 |
|-----|-------|-------|--------|



|     |          |       |         |        |
|-----|----------|-------|---------|--------|
| 第4問 | ホールインワン賞 | なし    |         |        |
|     | ニアピン賞    | 館野 和久 | 豊田通商(株) | 125.03 |
|     | 残念賞      | 寺田 貴弘 | 中部飼料(株) | 123.55 |

## 第55回 (2023年) Feed Trade アンケートのご案内

恒例のFeed Tradeアンケートを下記により募集いたします。奮ってご応募ください。

飼料輸出入協議会  
『Feed Trade』編集委員会

### 【設問】

- 第1問 2023年7月3日(月)の米国産トウモロコシのシカゴ定期  
12月限の引け値はいくらでしょうか。  
(セント／ブッシェル)
- 第2問 2023年10月2日(月)の米国産トウモロコシのシカゴ定期  
12月限の引け値はいくらでしょうか。  
(セント／ブッシェル)
- 第3問 2023年10月度のUSDA需給報告における2023／24クロープ  
米国産トウモロコシの生産高はいくらでしょうか。  
(百万ブッシェル)
- 第4問 2023年12月1日(金)現在の対米ドル換算率レート  
(三菱UFJ銀行TTS)はいくらでしょうか。(円／US\$)

それぞれの質問につきぴったりの数値だった方にホールインワン賞、最近似値を出された方にニアピン賞、次点の方に残念賞を差し上げます(上位者が2名以上の場合、残念賞は割愛いたします)。

なお、ご回答は2月17日(金)までに下記あて、FAXまたはEmailにてお願いいたします。

飼料輸出入協議会 電話 03-6457-9550 FAX 03-6457-9551  
Email jfta-o@galaxy.ocn.ne.jp (宮本宛)  
または, jfta-nishida.f@snow.ocn.ne.jp (西田宛)

---

# New Balance

---

< 12 >

岩崎食料・農業研究所 所長

岩崎 正典

---



## 「ラニーニャ現象と米国ドル高に翻弄された2022年の穀物需給」

### 1. 数々の驚きがあった9月末の米国農務省報告

例年であれば、米国中西部での天候や収穫進捗が取引材料となり、国内外の実需者が収穫プレッシャーを期待して、買付の機会を虎視眈々と窺うところだが、今年はウクライナ戦争に起因するマクロ経済の激動に市場の関心が向かい勝ちであった。外部市場では地政学的リスクの高まりや、米ドル高の独歩高やそれらが災いする景気後退懸念、そして株式や為替の変動が大きくなる中で、ファンダメンタルズの統計も激しく動いた。穀物市場は、中西部が収穫日和に恵まれる一方、ロシアと欧米諸国との緊張が高まったことで一進一退の展開になったが、米国農務省の四半期在庫調査と麦類の最終生産高推定が大きな驚きで発表された。

四半期在庫報告（単位：百万ブッシェル）

|        | 9月1日在庫 | 市場予想  | 農務省9月 | 6月1日  | 前年同期  |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|
| トウモロコシ | 1,377  | 1,512 | 1,525 | 4,346 | 1,235 |
| 大豆     | 274    | 242   | 240   | 971   | 257   |
| 小麦     | 1,766  | 1,766 | n.a.  | 660   | 1,774 |

米国農務省は、トウモロコシの四半期在庫を前年比で142百万ブッシェル多い1,377百万ブッシェルと発表し、市場予想を135百万ブッシェル下回った。農家在庫は前年比29%多い510百万ブッシェル、農場外在庫は前年比3

%増の 867 百万ブッシェルとなり、6－8 月期の消費推定は前年同期比 90 百万ブッシェル (3.1%) 増加の 2,970 百万ブッシェルになった。

一方マクロ経済では、欧米諸国のインフレ高進が容易なことでは抑制出来ないことが判明し、資源商品の国際市場への供給削減、即ち欧米諸国が進めて来た対ロシアのデカプリング政策が、問題を一段と複雑化させる方向に進んでいることで、先行きの不透明感を深めた。

## 2. 需給は引き締まったが、マチマチな反応になった10月度の需給報告

10月上旬に、ロシアとクリミア半島を結ぶクリミア大橋が爆破される事件が起り、ロシアが大規模なミサイル攻撃でウクライナに報復を始めた。ウクライナ戦争が一段と激化する中、米国でのインフレが根強いことが判明して、連邦準備理事会による積極的な利上げが継続するとの見方から米ドルが買われ、外為市場は米ドルの独歩高の様相を強め、ドル円も32年振りの高値に買い進まれた。米ドル高が加速する気配を強める中、中国向けに輸出成約が進んだ大豆が需給の引き締まりに反応したが、輸出成約報告が悲惨な状況になった小麦が急落すると、中国向け成約が続いた大豆も14ドル台を守れず、トウモロコシもツレ安となった。穀物需給に余裕は失われたが、米ドルが国際市場での競合に悪影響を及ぼす可能性が高いことに、シカゴ定期が反応した。

### a. 2022年産の生産高 (単位: 100万ブッシェル)

|        | 10月推定  | 市場予想   | 9 月予測  | 前年実績   |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| トウモロコシ | 13,895 | 13,885 | 13,944 | 15,115 |
| 大豆     | 4,313  | 4,381  | 4,378  | 4,435  |

米国農務省は、トウモロコシの作柄推定を前月予測より49百万ブッシェル下方修正した。市場予想を若干上回ったがほぼ想定通りで、単収見込みは0.6ブッシェル引き下げられて、171.9ブッシェルに改訂され、収穫予想面積の80.8百万エーカーは据え置かれた。コーンベルト東側での高単収に対して、西側の大平原寄りの産地は高温乾燥の被害を受けて低単収になった。

b. 期末在庫（単位：100万ブッシェル）

|        |     | 10月推定 | 9月予測  |
|--------|-----|-------|-------|
| トウモロコシ | 前年度 | 1,377 | 1,525 |
|        | 今年度 | 1,172 | 1,219 |
| 大豆     | 前年度 | 274   | 240   |
|        | 今年度 | 200   | 200   |

トウモロコシの前年度からの繰越在庫は、9月1日時点の全米在庫調査の結果1,377百万ブッシェルで確定した。米国農務省は前年度の作柄推定を42百万ブッシェル引き下げた他、飼料用途の消費を115百万ブッシェル引き上げて、5,715百万ブッシェルに改訂した。産業用途や輸出需要に微調整が行われ、6,769百万ブッシェルと2,471百万ブッシェルに修正された。その結果、合計106百万ブッシェルの需要増加になり、総需要量は14,956百万ブッシェルに改訂された。農家価格は前月から5セント高の6.00ドルに引き上げられた。

今年度の期末在庫見通しは1,172百万ブッシェルと、前月予測より47百万ブッシェル減少したが、市場予想を48百万ブッシェル上回った。繰越在庫の減少148百万ブッシェルと生産高の下方修正49百万ブッシェルに、輸入が25百万ブッシェル増加する見込みで、総供給量は前月より172百万ブッシェル縮小した。需要見通しは125百万ブッシェル、前年度よりも806百万ブッシェル少ない14,150百万ブッシェルとした。飼料用途の項目は前月より50百万ブッシェル増加して5,275百万ブッシェルになったが、産業用途は50百万ブッシェルの減少で6,725百万ブッシェルになった。そして、輸出需要は125百万ブッシェルの減退で2,150百万ブッシェルに下方修正された。農家価格予測は680セントと、前月より5セント引き上げられた。

世界の穀物生産は、北半球の冬作物は収穫が終了、春作物の収穫作業も後半に移ったので、北半球の生産比率の高い作物については世界の供給体制がほぼ固まったと言えるが、大豆のように南米諸国の生産比率が高い作物は、これから播種が始まる段階なので、あくまでも過去の傾向値による作柄見通しであった。

c. 世界の穀物生産高（22／23年度）推定と期末在庫見通し（単位：万トン）

|        |      | 10月推定   | 9月予測    | 前年実績    | 相違     |
|--------|------|---------|---------|---------|--------|
| トウモロコシ | 生産高  | 116,874 | 117,258 | 121,730 | ▲4,856 |
|        | 期末在庫 | 30,119  | 30,453  | 30,701  | ▲582   |
| 小 麦    | 生産高  | 78,170  | 78,392  | 77,976  | +194   |
|        | 期末在庫 | 26,754  | 26,857  | 27,601  | ▲847   |
| 大 豆    | 生産高  | 39,099  | 38,977  | 355,569 | +3,530 |
|        | 期末在庫 | 10,052  | 9,892   | 9,238   | +814   |

トウモロコシについては、米国に次ぐ中国の生産高が2億7,400万トンで前月予測と変わりなく、前年度の2億7,255万トンから微増と見込まれる。輸入は1,800万トンで、前年度から400万トンの減少見込みになった。期末在庫は2億622万トンと需要合計の2億9,500万トンの約7割を確保する見通しになった。次いで、干ばつの被害が注目される欧州の生産高推定は前月予測より260万トン少ない5,620万トンと推定され、前年実績7,098万トンから21%の減産になった。前年度は600万トンの輸出と2,000万トンの輸入があったと推定されるが、今年は2,000万トンの輸入は変わらないが輸出が270万トンに減退が見込まれた。ウクライナの作柄は前年度の4,213万トンが3,150万トンに25%の減産見込みで変わりはない。輸出は、黒海からの輸送回廊が出来たことから、今月は前月より250万トン多い1,550万トンに引き上げられたが、前年実績の2,700万トンには大きく届かない。ロシアの作柄は1,500万トンで400万トンの輸出余力と、昨年並みの見込みになった。

こうした北半球の生産動向に対して、これから播種に向かう南米諸国はアルゼンチンが、前年比350万トンの増産見込みで5,500万トンと予測され、輸出余力も増産分だけ前年度から増加して4,100万トンと予測されたが、主産地の降雨不足で播種の遅れが懸念される。ブラジルは前年度から1,000万トンの増産で1億2,600万トンが予測された。輸出余力は前年度の4,450万トンから4,700万トンへの増加が見込まれるが、国内畜産業の拡大が著しいことや、生産の7割は大豆の後作になる2期作トウモロコシで来年2月の播種、7月の収



穫になるので不確実性が残る。この他、南アフリカは前年比100万トン増産の1,730万トンで370万トンの輸出余力が見込まれるが、こちらも今後の降雨次第となる。期末在庫は中国の占める割合が高く、中国以外の国々の在庫が全体の31.5%で漸減傾向、米国の在庫も2013/14年度以来の低水準で、期末の対消費在庫率は8.3%と見込まれるので、決して安心できる水準ではない、そうした不安心理がシカゴ定期を高止まりさせる一因になった。

### 3. 中間選挙に向けて俄かに高まった市場の価格変動性

トウモロコシは米国での収穫が終わりに近付くと7ドルの節目が上値抵抗線に働き、50日移動平均線付近で終わったが、小麦はウクライナからの穀物輸出の先行き不透明感から、激しい値動きの中8ドル半ばに戻った。国際市場への供給懸念は、ラニーニャ現象の長期化によるものと言えるが、南半球を代表する豪州は、東豪州の降雨過多による品質劣化が必至となり、アルゼンチンからも小麦の霜害を始め、乾燥気候によるトウモロコシや大豆の播種作業の遅延が告げられた。一見、土壌水分に不安が少ないブラジルでは、大統領選挙結果が現職大統領の僅差での敗北になったが、2年前に米国で起こったと似通った形で、選挙結果を受け入れない支持者の抗議行動で、道路が封鎖されたことから農産物の物流混乱が報告された。大豆及び大豆製品は、北半球の生産高より大きくなった南米諸国からの供給不安が、新たな取引材料に浮上した。

マクロ経済は、株式市場が10月を通じてV字型回復を見せたように、投機資金が米ドルに集中する傾向が一段落したと思われた。積極的な利上げがもたらす悪影響が住宅分野で顕著になり、それが次第に高額商品である自動車販売などに波及することが懸念されるようになった。そうした景気減速傾向が、実際の経済指標が確認されるようになれば、連邦準備理事会の利上げペースがより穏やかなものになる可能性が語られていた。ところが、金融当局者の見解は、政策金利の終点（最終目標）は従来よりも高くなる可能性があるが、そこに到達する速度は頂点に近付けば緩やかになることは避けられな

い（小幅な利上げ回数が増える）というもので、今後の経済統計を注視したいというものであった。

11月のFOMCで政策金利の誘導目標は3.75から4.00%になったが、来年春にはそれが5.25%に上昇する可能性が残された。この米国金利の先走りに、流石のECBや英国もついて行けなくなり、連邦準備理事会の高金利政策による米ドルの独歩高を懸念する声が高まった。元を正せば、バイデン政権によるコロナ対策での大盤振る舞いと、その後のウクライナ戦争によるロシアからの資源商品に対するデカップリング政策がもたらしたインフレの高進になるが、11月8日の中間選挙で有権者による経済政策への評価を問うことになった。人々の暮らし向き、特に冬の到来を控えて、暖房費の高騰が切実な問題となって、エネルギー価格政策とその供給体制が最優先課題となり、穀物需給は後回しになった。しかし、今年のラニーニャ現象がもたらす、北半球の厳冬リスクはエネルギーにも食糧にも等しく影響を及ぼし、米ドルの独歩高はドル高の対岸にある非資源国の輸入インフレを通じて、需要の減速が懸念された。10月の雇用統計が斑模様ながら、失業率の上昇が景気減速の兆しと判断されて、米ドルが利食い売りに急落を見せた。中間選挙の結果とCPI等の物価統計次第では、外部市場の変動性が一段と高まる可能性を強めた。

#### 4. 小幅な需給の緩和見通しになった11月の需給報告

米国の中間選挙結果は、事前予想が外れて共和党旋風は起こらず、両院ともどちらが多数派になるのかが直ちには決まらず、米国の民意が分断された状況が解消されないまま、この対立が向こう2年間に亘って続くことを暗示させた。そして、経済面もCPIの伸びが前月比減少と発表されて、インフレが峠を越えた印象を与えると、外為市場は米ドルの全面安になった。利上げペースの減速期待から株式が大幅に上昇して、実物商品でも景気減速懸念の後退を反映する買戻しが起こった。

11月度の需給報告は、全体として小幅な需給の緩和を示して穀物相場を動かす材料には至らず、黒海を経由してのウクライナ産穀物の輸出回廊の期限

延長を巡る、国連とロシアとの交渉に関心が向かった。トウモロコシは輸出需要の停滞から50日移動平均線を下抜き6ドル半ばに値を落としたが、大豆は世界の実需家が押し目を買ったことで14ドル台半ばを維持した。小麦は国際需給が予想外な均衡を示し、ウクライナ産の先行き不透明感にもかかわらず、8ドルの節目が試された。

11月度の需給報告を前にした市場の事前予想は、今月は微調整の月として大きな変更を想定していなかった。(単収はブッシェル、生産高は100万ブッシェル。)

| 事前予想   | 単 収    |        |        | 期末在庫  |       |       |
|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
|        | 11月    | 前月予測   | 前年実績   | 11月   | 前月予測  | 前年実績  |
| トウモロコシ | 171.90 | 171.90 | 176.70 | 1,207 | 1,172 | 1,377 |
| 大 豆    | 49.80  | 49.80  | 51.70  | 212   | 200   | 274   |
| 小 麦    |        |        |        | 578   | 576   | 669   |

a. 2022年産の生産高推定 (単位：100万ブッシェル)

|        | 11月推定  | 市場予想   | 10月予測  | 前年実績   |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| トウモロコシ | 13,930 | 13,895 | 13,895 | 15,074 |
| 大 豆    | 4,346  | 4,313  | 4,313  | 4,465  |

米国農務省は、トウモロコシの作柄推定を前月予測より35百万ブッシェル上向き改定した。単収見込みは0.4ブッシェル引き上げられて172.3ブッシェルとなったが、収穫予想面積の80.8百万エーカーには変わりがなかった。大豆の生産高も前月予測より33百万ブッシェル上向き改定された。大豆の単収見込みが前月から0.4ブッシェル引き上げて50.2ブッシェルになったが、収穫予想面積の86.6百万エーカーに変わりはなかった。

b. 期末在庫 (単位：100万ブッシェル)

|        | 11月推定 | 10月予測 |
|--------|-------|-------|
| トウモロコシ | 1,182 | 1,172 |
| 大 豆    | 220   | 200   |

今年度は、生産高の上向き改訂35百万ブッシェルが、そのまま供給量の増加に

なった。飼料用途で25百万ブッシェルの消費増加になったが、エタノール用途や輸出需要が据え置きになったため、期末在庫見通しは前月より10百万ブッシェル多い、1,182百万ブッシェルへと小幅な増加にとどまり、農家価格は680セントで据え置かれた。市場は輸出成約の出遅れから、期末在庫の小幅な上向き改定を想定していただけに、やや意外感を与えた。普段は注目されないが、ソルガムの作柄推定が単収の低下により9百万ブッシェル少ない236百万ブッシェルに引き下げられ、輸出需要の削減により、期末在庫は24百万ブッシェルが維持された。小麦の供給減退ともども、飼料穀物の供給には制約が多い年度になった。

c. 世界の穀物生産高（22／23年度）推定と期末在庫見通し（単位は万トン）

|        |      | 11月推定   | 10月予測   | 前年実績    | 相違     |
|--------|------|---------|---------|---------|--------|
| トウモロコシ | 生産高  | 116,839 | 116,874 | 121,746 | ▲4,907 |
|        | 期末在庫 | 30,076  | 30,119  | 30,768  | ▲692   |
| 大豆     | 生産高  | 39,053  | 39,099  | 35,559  | +3,494 |
|        | 期末在庫 | 10,217  | 10,054  | 9,467   | +750   |

米国のトウモロコシ生産高推定が小幅に引き上げられたが、欧州や南アなどの減産と相殺され、世界の生産高は前月とは大差がなかった。北半球は前年度から大幅な減産となり、需給は引き締まりの方向にあるが、南米産地の生育はこれからになるので、豊作を想定した生産高予想が続く中、南アは土壤水分不足のため、作付面積の減少が認められた。同じくラニーニャ現象の影響が強まるアルゼンチンでも、播種作業の遅れが懸念を強めた。世界の期末在庫は3億トン台になっているが、この内2億強は国際市場からアクセスの出来ない中国の在庫である。ブラジルからの輸出が大豆の後作になる二期作トウモロコシ、即ち新穀出回りは来年7月以降になることも、トウモロコシの国際需給の特色になっている。

## 5. 取引材料が一巡すると、昔の比価の法則が復活した

国連のグテレス事務総長から、ウクライナ産穀物の輸出回廊は、現行の取り決めが変更されることなく11月18日から120日間延長されることになったと

発表された。同事務総長は、ロシアが延長に応じる際の最重要事項と主張していた「ロシア産穀物と肥料の輸出を阻害している障壁を取り除くこと」を約束した。この輸出回廊の交渉においても、トルコのエルドアン大統領のプレゼンスが目立つようになり、世界のパワーバランスが変貌して来たことを印象付けた。世界の穀物供給体制にも変化が生まれて来たので、米国がこけたら世界がこけるという状況ではなくなった。

国連からの報告では世界の人口が80億人に達して、過去12年間で10億人が追加されたという。2030年には85億人と予測され、現在の趨勢値では、アフリカやアジア地域の人口増が見込まれている。即ち、食用穀物であるコメや小麦の増産が必要になるが、足元の動きは、小麦よりも大豆やトウモロコシの飼料穀物の需給が引き締まり傾向を見せている。今回のウクライナからの穀物輸出騒動でも、国際機関はアジアやアフリカ向け食糧の供給危機を叫んだが、8月から始まった輸出の半分以上はトウモロコシや大麦の飼料穀物であった。

ロシアのウクライナ侵攻から9カ月が経過したが、まだ停戦の機運すら見えて来ない。この戦争の長期化は、ウクライナの穀物生産と輸出余力が大きく損なわれた状態が、今年度の後半そして来年度も継続する公算の高いことを意味する。春先は、有数の穀物輸出国からの供給が失われることに市場は大いに慌てたが、今から振り返ると、穀物の国際市場はウクライナからの供給減退よりも、世界各地で発生した天候異変による減産に大きく影響された。インフレの高進と新穀の作柄不安とが重なったことで、5月にはトウモロコシは8ドル、小麦は12ドル、そして大豆は17ドル台と今年の最高値を付けた。かつての、シカゴ定期では2-3-5の比価が常識であったが、21世紀になって実物商品時代が到来すると、それが4-6-10と約2倍になり、今回はその比価がさらに倍増することになった。こうした、北半球の播種終了前にシカゴ定期に現れた供給の不安感、北半球の収穫が終わり南半球の作柄が見通せる段階になると、トウモロコシが6.7ドル付近、小麦は8ドル割れ、そして大豆は14ドル台で、取り敢えずの均衡が成立した。



## 6. ウクライナ産穀物の現状と厳しい将来見通し

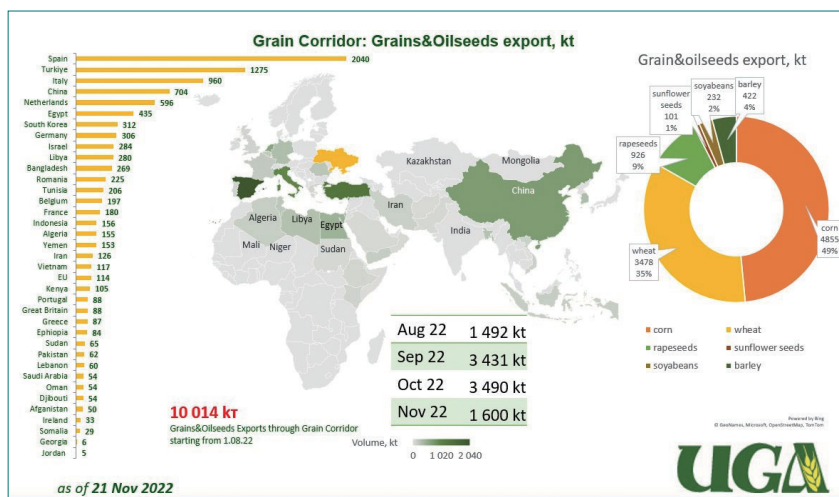
11月半ばに、国連の仲介によりロシアがウクライナからの穀物輸出回廊を向こう120日間延長することに同意したが、ウクライナ戦争の影響は、単に穀物輸出の問題にとどまらず、今秋はウクライナの冬作物が、大幅な作付面積の減少と報じられた。この戦争が始まって最初の穀物生産は、今年産のトウモロコシやヒマワリになったが、トウモロコシは前年比1,063万トン（25.2%）の減産で3,150万トン、ヒマワリは前年比740万トン（42.3%）の減産で1,010万トンと推定されている。ちなみに、冬作物の小麦は1,250万トン（37.9%）の減産で2,050万トン、大麦は350万トン（35.5%）の減産で640万トンと推定される。麦類の主産地はウクライナの南東部であるため、戦禍で収穫が妨げられたと推察される。春作物はウクライナの北西部が主産地になるので、トウモロコシの播種への影響は比較的少なかった印象を受けるが、ロシアが東部4州を併合した後の穀物生産、即ち次年度の穀物生産がどのような影響（ウクライナの統計からこの部分が外される？）を受けるのかは、今の段階ではよく分からない。メディア報道では、社会インフラの破壊がかなり進んでいるようなので、来年春になって春作物の播種が例年通りに行えるのかも非常に懸念される。

UGA（ウクライナ穀物協会）の資料では、これまで（8月から11月中旬）に合計1,001.4万トンのウクライナ産穀類が、この輸出回廊を経由して船積されたという。仕向け国上位5カ国は、スペインが204万トン、トルコが127.5万トン、イタリアが96.0万トン、中国が70.4万トン、そしてオランダが59.6万トン、合計すると上位5カ国が全体の6割弱を占めている。国連はアフリカなどの最貧国向けの食糧輸送が阻止されたと主張するが、実際は欧州各国やトルコと中国への飼料穀物が輸出の中心であった。

ウクライナ戦争が長期化すれば、来年に向けてもこの地域からの輸出に大きな期待はできないように見える。ちなみに、今年度の小麦の世界貿易量は、202百万トン、トウモロコシは183百万トン（粗粒穀物は226百万トン）、大豆

は165百万トン（油糧種子は197百万トン）と推定されるので、ウクライナからの輸出数量が、世界の需給に与える影響はそれほど大きくはない。しかし、メディア報道で、大変だ大変だと叫ばれると、現物保有または先物市場での買ヘッジがなければ、将来の備えがないことに不安感が募り、市場心理として何かせずにいられなくなる。そうしたリスクは低い、万が一、不幸な事態に見舞われれば、それを甘受するだけの度胸と統計データを持ち合わせていないので、皆で渡れば怖くないとして、高いハードルを越えて行くことになった。冷静にこの間の出来事を振り返ると、もう少し落ちついて対処すれば良かったことになる。

＝穀物輸出回廊からの輸出実績＝UGA（ウクライナ穀物輸出協会）の資料より転載



## 7. 今年度はラニーニャ現象からの影響も特徴の一つ

北半球の収穫データが集まると、より精度の高いデータに基づいて需給の全体像を語ることが可能になるが、米国農務省の11月需給報告では、今年度の世界穀物生産高推定が、次のように示された。（単位は100万トン）

| 生産高     | 今年度     | 前年度     | 相違     | (割合)  |
|---------|---------|---------|--------|-------|
| 小 麦     | 782.7   | 779.4   | 3.3    | 0.4%  |
| トウモロコシ  | 1,168.4 | 1,217.5 | ▲49.1  | ▲4.0% |
| 粗粒穀物    | 1,459.5 | 1,503.3 | ▲43.8  | ▲2.9% |
| コ メ(精米) | 503.7   | 515.1   | ▲11.4  | ▲2.2% |
| 大 豆     | 390.5   | 355.6   | + 34.9 | +9.8% |
| 油糧種子    | 619.4   | 578.9   | +40.5  | +7.0% |

今年度はコメの減産が示すように、インド、中国そしてパキスタンでの悪天候と同時に、トウモロコシでも米国と欧州（含むウクライナ）の減産が発生したことが特徴で、南米産地の比率の高い大豆は、今のところ、前年度から生産の大幅な回復が想定されている。北半球の作柄の特徴は、ロシアで冬小麦の大豊作と春小麦の凶作が同時に発生したことに示されるが、ラニーニャ現象に影響される期間の微妙な違いで、隣合わせの産地で天国と地獄のような相違が起こった。欧州で小麦は減産を免れたが、トウモロコシが大減産になったのが具体例である。春の播種時点では、ラニーニャ現象の長期化は想定外であったが、北半球では米国と欧州の春作物に悪影響を及ぼした。そのラニーニャ現象は東豪州の降雨過多となって作柄見通しを改善したが、収穫にまで降雨が長期化したことから著しい品質の劣化が心配された。

南米ではブラジルで小麦の品種改良が進み、今年は22%の増産で940万トンの大豊作に恵まれたが、隣国アルゼンチンで、ラニーニャ現象の影響が強まった。冷涼乾燥気候で、前年比30%の大減産で1,550万トンと予測されたが、その後は一段と作況が悪化した。このことは小麦のみならず、後に続くトウモロコシや大豆についても、アルゼンチンでは過酷な環境下で、夏作物の播種作業と初期生育が行われることを示唆している。隣国ブラジルともども、南米産地の生産比率が半分を超える大豆の供給が、依然として天候リスクの下にあり、ブラジルの二期作トウモロコシともども、供給不安が語られる一因となった。

従い、昔ながらに天候相場の終了／需要相場の開始と、物事を区分して考

察することが出来なくなった。シカゴ定期では、小麦とトウモロコシの価格差が一時期 3 ドル／ブッシェルを超える格差（小麦のプレミアム体系）で取引されたが、1 ドル余りに縮小したので、平常時の価格差に戻ったと言える。この小麦市場に戻った冷静さが、トウモロコシや大豆にと波及するのかどうか、中でも需給が引き締まりに転じたトウモロコシは南米産地が輸出指向型の産地であり、大豆は中国の調達が南米産に移行する時期が迫っているだけに、ラニーニャ現象下の南米産の生育動向を軽視することは出来なくなった。

## 8. 感謝祭休日明けに浮上した輸出市場の話題

感謝祭明けのトウモロコシ市場に、ブラジル産トウモロコシ68千トン積み込んだ中国向けの最初の本船が間もなく出航するという情報が流れた。2022 年初に、中国とブラジルとの間に政府間で合意された穀物取扱承認施設の拡大について、ようやく中国の許可が下りたことで、合計20万トン程度の船積が計画された。市場では、中国がトウモロコシの調達先をウクライナや米国以外にと多角化を図っていると理解された。ところが、ブラジルでは今回の大統領選挙結果が納得できないという人々が、主産地マト Grosso 州からの幹線道路を閉鎖したために、穀物の港湾施設への輸送費が高騰した。トラック運賃は50リアル・トンの上昇で約 2 割高に相当するので、輸出業者には大打撃となった。そして、感謝祭休日前に、水位の回復が伝えられたミシシッピ川で、再び水位の低下が起これば不安材料になる中、米国のトウモロコシの輸出船積が、前年比で大幅に減退していることが判明した。

11月24日段階の輸出検証高の報告は下表の通りであった。（単位は千ブッシェル。）

|        | 今週    | 前週    | 前年同期  | 今季の累計  | 前年同期   |
|--------|-------|-------|-------|--------|--------|
| トウモロコシ | 302   | 499   | 806   | 5,808  | 8,634  |
| 小 麦    | 198   | 291   | 391   | 10,489 | 10,904 |
| 大 豆    | 2,022 | 2,425 | 2,259 | 19,248 | 21,400 |

需給の見直しとの関連では、トウモロコシの船積累計が前年比で33%の遅れで進捗していることが目立った。トウモロコシでは、ブラジルの輸出攻勢の高まりと判断され、米国の輸出需要見通しが下方修正されるとの見方が強まった。また、輸出成約報告でも大豆の好調さに対してトウモロコシの低迷が顕著になった。ブラジル発の情報は、11月の穀物輸出はトウモロコシが605万トンで昨年の240万トンを大きく上回ったが、大豆は264万トンと昨年の259万トンとはほぼ同じであった。国内消費動向は、トウモロコシは10月のエタノール用消費が449百万ブッシェルと前年同期の468百万ブッシェルを下回ったが、前月の383百万ブッシェルからの回復が大きかった。大豆は10月の搾油量が197百万ブッシェルと前年度と同じであったが、9月の168百万ブッシェルを大きく上回った。両者とも国内消費動向は堅調だが、輸出の出方が鍵となる中、週間輸出成約報告は、3品ともに落胆させる内容で発表された。(単位、千トン)

|        | 今週の成約 | 船積累計   | 未渡し成約  | 成約累計   | 前年比   | 予測対比 |
|--------|-------|--------|--------|--------|-------|------|
| トウモロコシ | 602.7 | 5,773  | 12,579 | 18,352 | 51.8  | 33.6 |
| 小 麦    | 155.5 | 9,495  | 3,957  | 13,452 | 93.9  | 63.8 |
| 大 豆    | 693.8 | 19,066 | 18,232 | 37,298 | 100.4 | 67.0 |

大豆は中国向けの成約累計が前年比2,192千トン多い、22,500千トンになったことが寄与して、前年度同期の水準を保ち、米国農務省の予測通りの進捗になったが、トウモロコシはブラジル産との競合から極端な不振、小麦も予測通りに進んでいない。米国ドル高がトウモロコシや小麦の成約の阻害要因とされていたが、11月から米国ドルが反落したことでどこまで競争力が回復するのか、またそれを米国農務省がどのように評価するのかが注目点になった。輸出市場では、中国がアルゼンチン産大豆を数杯分調達したと噂され、ガルフの現物ベースス軟化は、水位の回復見通しという解運賃に起因するものか、それとも輸出市場での競合に起因するものかに関心が寄せられた。

また、カナダ統計局から2022年産の生産高推定が発表され、小麦、大麦、そ



してカノーラの作柄回復が確認された。（単位：千トン）

|        | 2022年産 | 前年産    | 前年比（％） |
|--------|--------|--------|--------|
| 小 麦    | 33,844 | 22,296 | 51.7   |
| 大 麦    | 9,987  | 6,959  | 43.5   |
| トウモロコシ | 14,539 | 13,984 | 4.0    |
| カノーラ   | 18,174 | 13,757 | 32.1   |
| 大 豆    | 6,543  | 6,272  | 4.3    |

## 9. ほば市場の予想通りの内容になった12月の月例需給報告

12月上旬のシカゴ定期は、小麦やトウモロコシがウクライナ戦争の始まる前の値位置に戻される一方で、大豆が15ドルの大口目前に買い進まれた。これまで、12月の需給報告は一年で最も印象の薄い月例報告と言われて来たが、今回もファンダメンタルズの観点から、市場に驚きを与える内容は乏しかった。米国需給の変更点は、トウモロコシの輸出需要が75百万ブッシェル下方修正され、それが期末在庫の増加につながった。従い、農家価格も10セント低下して670セントになったことは当然視された。また、ソルガムも中国の買付の激減から輸出需要が20百万ブッシェル引き下げられたが、それは国内消費で吸収されることで、期末在庫の増加に反映されることはなかった。期末在庫の変動は次のようになった。

|        | 期末在庫（100万ブッシェル） |       |       |       | 農家価格（セント） |      |      |
|--------|-----------------|-------|-------|-------|-----------|------|------|
|        | 12月予測           | 市場予想  | 前月    | 前年度   | 12月予測     | 前月   | 前年度  |
| トウモロコシ | 1,257           | 1,237 | 1,182 | 1,377 | 670       | 680  | 600  |
| 大 豆    | 220             | 238   | 220   | 274   | 1400      | 1400 | 1330 |
| 小 麦    | 571             | 576   | 571   | 669   | 910       | 920  | 763  |

12月の世界需給見通しは、それほど大きな変化はなかった。市場では、ラニーニャ現象がアルゼンチンの小麦生産を危機的な状況に追い込んでいるが、同じくラニーニャ現象の影響は東豪州では正反対に働いて、小麦は3年連続

の豊作，しかも今年は史上最高の作柄と推定された。しかし，市場参加者が警戒感をもって見守っている，南米諸国のトウモロコシと大豆の見通しは据え置かれたので，南半球からの追加供給という視点では，問題が先送りされた。米国農務省の数字は，以下の通り。（単位は，万トン）

| 世界の期末在庫 | 12月推定  | 前月推定   | 前年度    | 前月比  | 前年比  |
|---------|--------|--------|--------|------|------|
| 小 麦     | 26,733 | 26,782 | 27,631 | ▲49  | ▲898 |
| トウモロコシ  | 29,840 | 30,076 | 30,709 | ▲236 | ▲869 |
| 粗粒穀物    | 32,427 | 32,643 | 33,414 | ▲216 | ▲987 |
| 大 豆     | 10,271 | 10,217 | 9,559  | +54  | +712 |

| 世界の生産高 | 12月推定   | 前月推定    | 前年度     | 前月比  | 前年比    |
|--------|---------|---------|---------|------|--------|
| 小 麦    | 78,059  | 78,268  | 77,933  | ▲209 | +126   |
| トウモロコシ | 116,186 | 116,839 | 121,687 | ▲653 | ▲5,501 |
| 粗粒穀物   | 145,362 | 145,954 | 150,269 | ▲592 | ▲4,907 |
| 大 豆    | 39,117  | 39,053  | 35,561  | +64  | +3,556 |

作柄の固まる順に，小麦は世界全体としての変動が少ないが，期末在庫はかなりの減少が見込まれる。作柄に地域的な凸凹があるが，輸出余力の減退は限られて，ある種の均衡が保たれている。ところが，トウモロコシは米国と欧州の2大産地でラニーニャ現象が原因といわれる大減産が発生して，期末在庫の取り崩しが進んだことが明らかになった。そして，飼料穀物全体では，トウモロコシの減産を他の飼料穀物の生産増加で埋め合わせが難しい上に，小麦からの支援も多くは望めない姿になった。そして唯一，大增産が見込める大豆は，全体に占める南米産地の比率が半分を超えているので，その生産高も期末在庫予測も，南米産地の作柄次第という段階である。

12月度の需給報告を受けて，中国向け成約が続く大豆は，米国需給のタイト感がシカゴ定期に反映されることで比較高値が保たれる一方で，小麦は，米国内の需給が引き締まったものの国際市場での競争力が失われることで上値が抑えられた。トウモロコシはその狭間で需給の均衡感が生まれた印象を与

えた。実際の需給統計数字からのイメージとはかなり違った価格の変動が起きているが、国別の作柄予測・推定は次の通りになった。（単位：万トン）

| 生産高    | 12月推定  | 前月推定   | 前年度    | 前月比  | 前年比    |
|--------|--------|--------|--------|------|--------|
| トウモロコシ |        |        |        |      |        |
| アルゼンチン | 5,500  | 5,500  | 5,150  | 0    | +350   |
| ブラジル   | 12,600 | 12,600 | 11,600 | 0    | +1,000 |
| ロシア    | 1,400  | 1,500  | 1,523  | ▲100 | ▲123   |
| ウクライナ  | 2,700  | 3,150  | 4,213  | ▲450 | ▲1,513 |
| 大 豆    |        |        |        |      |        |
| アルゼンチン | 4,950  | 4,950  | 4,390  | 0    | +560   |
| ブラジル   | 15,200 | 15,200 | 12,700 | 0    | +2,500 |
| 小 麦    |        |        |        |      |        |
| アルゼンチン | 1,250  | 1,550  | 2,215  | ▲300 | ▲965   |
| 豪州     | 3,660  | 3,450  | 3,635  | +210 | +25    |
| カナダ    | 3,382  | 3,500  | 2,230  | ▲118 | +1,152 |
| ロシア    | 9,100  | 9,100  | 7,516  | 0    | +1,584 |
| ウクライナ  | 2,050  | 2,050  | 3,301  | 0    | ▲1,251 |

これから生育が始まる、南米諸国の作柄と輸出余力が、米国の新穀供給に目途が付くまでの間の鍵を握っている。今月の米国農務省の需給見通しは、南米両国の大豆、トウモロコシの作柄に関しては机上計算段階の数字になっていることに注意が必要である。今年一年を振り返ると、外部市場を含めて、過去の経験則が全く機能しない環境に変化した。新型コロナウイルスが登場してもう3年、ウクライナ戦争が間もなく10カ月になろうとしている。遠くの戦争は、商品市場にはプラスに働くことが多かったが、今回は世界のインフレを加速させることになったので、その反作用で景気を後退させる公算が高くなった。多くの経験則が働きを弱め、大数の法則（行き過ぎた乖離は修正される）すら否定されるようになった。後追いで事実の確認が中心になる、米国農務省の需給統計の限界と言えるが、過去の経験に基づく先読みが次第に難しくなったことが今年の教訓と言える。（2022年12月20日記）

# USDA需給報告（US産トウモロコシ）

|        | 21／22年度 |        |        |        | 22／23年度 |        |        |        |
|--------|---------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 報告月次   | 9月      | 10月    | 11月    | 12月    | 9月      | 10月    | 11月    | 12月    |
| 作付面積   | 93.4    | 93.3   | 93.3   | 93.3   | 88.6    | 88.6   | 88.6   | 88.6   |
| 収穫面積   | 85.4    | 85.3   | 85.3   | 85.3   | 80.8    | 80.8   | 80.8   | 80.8   |
| 単収     | 177.0   | 176.7  | 176.7  | 176.7  | 172.5   | 171.9  | 172.3  | 172.3  |
| 生産高    | 15,115  | 15,074 | 15,074 | 15,074 | 13,944  | 13,895 | 13,930 | 13,930 |
| 期首在庫   | 1,235   | 1,235  | 1,235  | 1,235  | 1,525   | 1,377  | 1,377  | 1,377  |
| 輸入     | 25      | 24     | 24     | 24     | 25      | 50     | 50     | 50     |
| 総供給量   | 16,375  | 16,333 | 16,333 | 16,333 | 15,494  | 15,322 | 15,357 | 15,357 |
| 飼料用途   | 5,600   | 5,715  | 5,717  | 5,717  | 5,225   | 5,275  | 5,300  | 5,300  |
| 産業用途   | 6,775   | 6,769  | 6,767  | 6,767  | 6,775   | 6,725  | 6,725  | 6,725  |
| エタノール  | 5,330   | 5,328  | 5,326  | 5,326  | 5,325   | 5,275  | 5,275  | 5,275  |
| 国内消費   | 12,375  | 12,484 | 12,484 | 12,484 | 12,000  | 12,000 | 12,025 | 12,025 |
| 輸出需要   | 2,475   | 2,471  | 2,471  | 2,471  | 2,275   | 2,150  | 2,150  | 2,075  |
| 総需要量   | 14,850  | 14,956 | 14,956 | 14,956 | 14,275  | 14,150 | 14,175 | 14,100 |
| 期末在庫   | 1,525   | 1,377  | 1,377  | 1,377  | 1,219   | 1,172  | 1,182  | 1,257  |
| 在庫率(%) | 10.3    | 9.2    | 9.2    | 9.2    | 8.5     | 8.3    | 8.3    | 8.9    |
| 農家価格   | 5.95    | 6.00   | 6.00   | 6.00   | 6.75    | 6.80   | 6.80   | 6.70   |

注：面積は100万エーカー，単収はブッシェル・エーカー，生産・消費は100万ブッシェル。

## 世界のトウモロコシ需給バランス 22／23年度

| 国名       | 期首在庫   | 生産高     | 輸入     | 飼料     | 内需      | 輸出     | 期末在庫   |
|----------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 世界 11月予測 | 30,768 | 116,839 | 17,760 | 74,033 | 117,530 | 18,274 | 30,076 |
| 世界 12月予測 | 30,709 | 116,186 | 17,642 | 73,525 | 117,055 | 18,163 | 29,840 |
| 中国       | 20,914 | 27,400  | 1,800  | 21,400 | 29,500  | 2      | 20,612 |
| 除 中国     | 9,796  | 88,786  | 15,842 | 52,125 | 87,555  | 18,161 | 9,229  |
| 米国 11月予測 | 3,498  | 35,384  | 127    | 13,463 | 30,545  | 5,461  | 3,002  |
| 米国 12月予測 | 3,498  | 35,384  | 127    | 13,463 | 30,545  | 5,271  | 3,193  |
| 除 米国     | 27,212 | 80,803  | 17,515 | 60,063 | 86,510  | 12,893 | 26,648 |
| メキシコ     | 316    | 2,760   | 1,720  | 2,600  | 4,420   | 60     | 316    |
| アルゼンチン   | 149    | 5,500   | 1      | 1,000  | 1,400   | 4,100  | 149    |
| ブラジル     | 495    | 12,600  | 130    | 6,550  | 7,700   | 4,700  | 825    |

|           |     |       |       |       |       |       |     |
|-----------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 欧州 11月予測  | 996 | 5,480 | 2,000 | 5,550 | 7,470 | 270   | 736 |
| 欧州 12月予測  | 994 | 5,420 | 2,150 | 5,650 | 7,610 | 220   | 734 |
| ウクライナ 11月 | 457 | 3,150 | 0     | 950   | 1,070 | 1,550 | 987 |
| ウクライナ 12月 | 509 | 2,700 | 0     | 650   | 770   | 1,750 | 689 |
| ロシア       | 93  | 1,400 | 5     | 1,000 | 1,120 | 400   | 78  |
| 南アフリカ     | 192 | 1,670 | 0     | 730   | 1,330 | 340   | 192 |
| 東南アジア     | 340 | 3,026 | 1,700 | 3,870 | 4,695 | 58    | 313 |
| 韓国        | 206 | 8     | 1,100 | 870   | 1,105 | 0     | 209 |
| 日本        | 138 | 1     | 1,500 | 1,150 | 1,500 | 0     | 139 |

単位は10,000トン。

#### 世界の大豆需給バランス 22／23年度

| 国名       | 期首在庫  | 生産高    | 輸入     | 搾油     | 内需     | 輸出     | 期末在庫   |
|----------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 世界 11月予測 | 9,467 | 39,053 | 16,628 | 32,928 | 38,017 | 16,914 | 10,217 |
| 世界 12月予測 | 9,559 | 39,117 | 16,621 | 32,932 | 38,088 | 16,938 | 10,271 |
| 中国       | 3,179 | 1,840  | 9,800  | 9,600  | 11,659 | 10     | 3,150  |
| 除 中国     | 6,380 | 37,277 | 6,821  | 23,332 | 26,429 | 16,928 | 7,121  |
| 米国 11月予測 | 745   | 11,827 | 41     | 6,110  | 6,448  | 5,566  | 599    |
| 米国 12月予測 | 745   | 11,827 | 41     | 6,110  | 6,448  | 5,566  | 599    |
| 除 米国     | 8,814 | 27,290 | 16,580 | 26,822 | 31,640 | 11,372 | 9,672  |
| メキシコ     | 30    | 23     | 640    | 655    | 660    | 0      | 33     |
| アルゼンチン   | 2,390 | 4,950  | 480    | 3,975  | 4,700  | 770    | 2,350  |
| ブラジル     | 2,381 | 15,200 | 75     | 5,175  | 5,535  | 8,950  | 3,171  |
| パラグアイ    | 13    | 1,000  | 1      | 375    | 393    | 565    | 56     |
| 欧州       | 155   | 247    | 1,440  | 1,490  | 1,648  | 25     | 169    |

単位は10,000トン。

## 春季為替セミナー開催のご案内

飼料輸出入協議会

恒例の為替セミナーを下記の通り開催いたしますので、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

なお、今回も会場開催と同時にweb配信を行う予定です。どちらでのご参加を希望されるかも、お申し込みの際ご連絡いただきますようお願いいたします。

### 記

日 時：令和5年3月15日(水) 14時～15時30分

(会場開催の受付開始13時30分～)

場 所：新橋ビジネスフォーラム <http://biz-forum.jp/access.html>  
港区新橋1-18-21 第一日比谷ビル 8 F TEL 03-5843-9169

演 題：『2023年の世界経済見通し』

講 師：みずほリサーチ&テクノロジーズ(株)

調査部副部長 武内 浩二様

参加料：無料（定員となり受付できない場合のみこちらからご連絡申し上げます）

■参加ご希望の方は下記へお申し込み下さい。

飼料輸出入協議会 電話 03-6457-9550 FAX 03-6457-9551

Email：jfta-o@galaxy.ocn.ne.jp（宮本宛）

又はjfta-nishida.f@snow.ocn.ne.jp（西田宛）



## Feed Trade 総目次

(2022年 1 - 3月号, 4 - 6月号 (WEB版) ~10-12月号)

Vol.58 No. 1 ~ 4 (通巻493号~496号)

### ●座談会

オンライン座談会：大豆，大豆・菜種粕の需給と今後の見通し

(島田達也，柳原百喜，渡邊友太郎，高田佳和，原山紘弥，森岡加理武，  
鈴木湧也，松村雅司) ..... 4 - 6月号

オンライン座談会：米国産トウモロコシの需給とシカゴ相場動向

(安瀬明良，高橋千明，大垣和平，竹内宏一郎，加藤 淳，長谷川朝飛，  
藤原 玄，岡田圭介) ..... 7 - 9月号

### ●解説，内外の原料事情

魚粉の未来 (井口 忍) ..... 4 - 6月号

釜石港コンテナ物語 (中平貴之) ..... 10-12月号

魚粉の進化を考える (井口 忍) ..... 10-12月号

### ●セミナー，講演会

オンライン春季為替セミナー・2022年の世界経済見通し (井上祐介) /

2022年のエネルギー動向 (村井美恵) ..... 4 - 6月号

海運セミナー・WEB同時配信：ドライバルク船マーケット動向とロシアの

ウクライナ侵攻の影響 (中島正歳) ..... 7 - 9月号

秋季為替セミナー・WEB同時配信：最近の金融市場の動向 (藤田義崇)

..... 10-12月号

### ●挨拶，プロフィール，お知らせ，その他

新春のご挨拶 (白木友宏) ..... 1 - 3月号

年頭のご挨拶 (森 健) ..... 1 - 3月号

---

|                                               |           |
|-----------------------------------------------|-----------|
| 『Feed Trade』 冊子送付の終了とオンライン配信のご案内              | 1 - 3 月号  |
| 『Feed Trade』 総目次 (2021年 1 - 3 月号 ~ 10 - 12月号) | 1 - 3 月号  |
| 春季為替セミナー開催のご案内                                | 1 - 3 月号  |
| 私のプロフィール (須藤拓也)                               | 4 - 6 月号  |
| 海運セミナー開催のご案内                                  | 4 - 6 月号  |
| 理事長新任あいさつ (立川義大)                              | 7 - 9 月号  |
| 令和 4 年度新役員, 専門委員会の委員決まる                       | 7 - 9 月号  |
| 私のプロフィール (岩瀬裕紀)                               | 7 - 9 月号  |
| 秋季為替セミナー開催のお知らせ                               | 7 - 9 月号  |
| 新年賀詞交礼会についてのお知らせ                              | 10 - 12月号 |

#### ● アンケート, 10大トピックス

|                                  |          |
|----------------------------------|----------|
| 2021年10大トピックス                    | 1 - 3 月号 |
| 第53回 (2021年) 新春アンケート当選者発表        | 1 - 3 月号 |
| 第54回 (2022年) Feed Tradeアンケートのご案内 | 1 - 3 月号 |
| 第54回 (2022年) Feed Tradeアンケート結果   | 4 - 6 月号 |

#### ● 随 筆

新春海外だより (谷田部悠輔, 田中秀一, 高松 元, 小川陽平,

|                         |          |
|-------------------------|----------|
| 松澤誠二郎, 奥井重行, 宇治拓摩, 森 一陽 | 1 - 3 月号 |
| シリーズ●わが社「自慢の逸品」         |          |

|                                           |           |
|-------------------------------------------|-----------|
| ③④そもそもからこだわるNOSAN (西本実樹)                  | 1 - 3 月号  |
| ③①こだわりの豚肉「燦然(さんぜん)」のご紹介 (伊藤忠飼料(株))        | 4 - 6 月号  |
| ③②魚粉不使用のマダイ用飼料「鯛 a-ZERO」のご紹介 (中部飼料(株)水産部) | 7 - 9 月号  |
| ③③「美味ピータン」のご紹介 (丸紅エッグ(株)加工事業部)            | 10 - 12月号 |

#### ● わが社飼料関連部署の新人紹介

|                                                |          |
|------------------------------------------------|----------|
| 三菱商事(株), 三井物産(株), 双日(株), 丸紅(株), 豊田通商(株), 兼松(株) | 7 - 9 月号 |
|------------------------------------------------|----------|

---

## シリーズ●各地の食生活

- ⑧代表的なモロッコ料理（大島隆太郎）…………… 1－3月号  
⑨タイの食生活（満山一輝）…………… 4－6月号  
⑩モンタナ州でも定番料理はハンバーガー（堀木孝司）…………… 7－9月号  
⑪ニューヨークの食生活（小國聖仁）…………… 10－12月号

## シリーズ●各商社の担当者紹介

- ⑤兼松(株)＝穀物飼料部粗飼料課ペレットチーム担当者紹介…………… 1－3月号  
⑥三井物産(株)＝食糧事業部飼料穀物室／飼料原料室担当者紹介…………… 4－6月号  
⑦三菱商事(株)＝弊社自慢の食糧本部穀物飼料部社員のご紹介  
（鳥井慎太郎）…………… 7－9月号

- ⑧丸紅(株)＝弊社食料第二本部穀物油糧部社員のご紹介…………… 10－12月号

## シリーズ●フリートピック

- ①米国の物価事情（向井 滉）…………… 10－12月号

## ●New Balance（岩崎正典）

- <8>豊作に売り無しになった今秋の穀物相場…………… 1－3月号  
<9>ウクライナ情勢という新しい材料が生まれた穀物相場…………… 4－6月号  
<10>典型的な春高型になった今年のトウモロコシ相場…………… 7－9月号  
<11>ウクライナ戦争と米国ドル高に翻弄される今年の穀物市場…………… 10－12月号

## ●編集後記…………… 1－3～10－12月号

## ●表紙

- クトナー・ホラの聖バルボラ教会（チェコ共和国）…………… 1－3月号  
グレンキャニオン・コロラド川（米国）…………… 4－6月号  
ベネチア（イタリア共和国）…………… 7－9月号  
エローラ石窟群カイラーサナータ寺院（インド）…………… 10－12月号

## 編集後記



原料のコスト上昇が製品価格に転嫁できず苦しんでいるのは、我が飼料畜産業界だけではなく、幅広い業界に共通している。これに対して様々な財政支出で対策が取られる。その原資は税金であり、往々にして「こんな業界にこんな高額の財政支出をすべきでない」という批判が出る。

財政支出の目的は、「個別最適で民間が行動することで全体最適にならない場合に是正すること」である。本来は、省庁ごと、業種ごとという縦割りではなく、俯瞰的に実施されるべきであるが、実務が回らないので、縦割りにならざるを得ないのも理解できる。

飼料畜産業界への財政支出に関する批判がある。配合飼料の原料は、実際には輸入穀物類の他、国内の様々な食品産業の副産物、残渣が使われている。にもかかわらず、批判の根拠の多くは、原料が輸入頼みで怪しからんというトーンである。飼料畜産業の衰退は、副産物、残渣の国内需要の減少をもたらし、食品産業まで衰退させてしまうという重要な視点が欠落していることを指摘せざるを得ない。

90年代の中国では、経済成長に伴い、畜産物の需要が急増した。表向きの効率だけを考えたら畜産物の輸入を増やすのが簡単であるにもかかわらず、中国は国内の畜産を振興した。30年近く経ってコーンの輸入大国になりつつあるが、当時は大豆のみ国産を諦めて輸入に依存するという決断を下した。幅広い業界、それに伴う雇用を維持するためだったと容易に想像できる。

今号では、ヘッジについて寄稿させていただいた。先物市場の効用を表面的にとらえると、昨今の上げ相場にヘッジ機能が役立つと思いがちであるのは分かるが、ここではあえてできることとできないことを明示したつもりである。ご理解に役立てば幸いである。

また今号では、1月5日に開催することができた賀詞交礼会のご報告もできた。当協議会の最も大きな行事が3年ぶりに開催できたことは喜ばしいことであり、同時に開催に際しご協力いただいた各位に改めて御礼を申し上げたい。関係者で議論し、従来と異なる方法での開催となったが、この方法を省みて次回以降の開催に役立てていきたい。

